

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM, Kodak

三 鷓 と さ と ふ る



8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6



ふるさと 三鶺



三鶺小学校の歴史

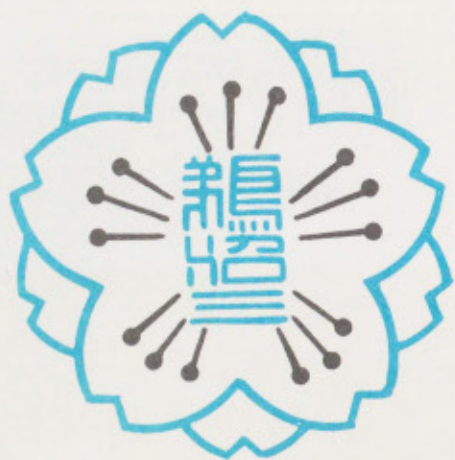
草刈重紀

謹呈

鶺沼第三小学校



上空から見た鶴三校下 1982年4月



この本は鶺鴒小開校十周年を記念して校下のようすやうつりかわりなどみなぎりに知っていただくためにつくりました。私たちの鶺鴒三校下は数千年の歴史をもち、近年は新しい団地が次々とできて各務原市の東の玄関として発展してきました。

みなさんはこの本から校下のことをくわしく学んでよりよいふるさと鶺鴒三をつくりあげてください。

そのためにもこの本をながく大切にしてください。

学校長 素原吉雄

▲EPOCHS UNIVISION 4000
(昭和四十九年)



▶川に生きるライン下り



桑原野古墳出土の須恵器

▶開校10周年記念
一風せんとはしー



▲鶺鴒沼駅再開発計画のイメージスケッチ



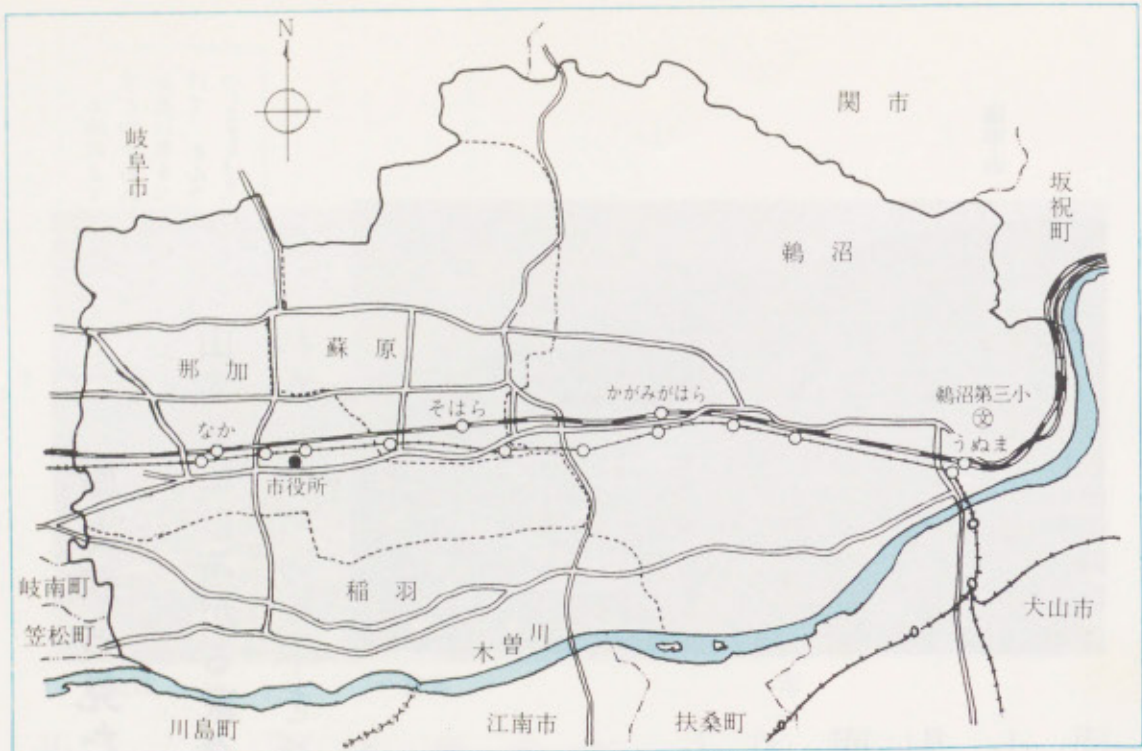
1974年4月



1982年4月

「ふるさと鵜沼」もくじ

- 一、校下のようす
 - (一) 各務原市の東の玄関 1
 - (二) 屋上から見た校下 3
- 二、校下の人々のくらし
 - (一) 米づくりのためのたたかい 7
 - (二) かいこを飼う農家 11
 - (三) ツツキボウをたずねて 17
 - (四) 川に生きる人々 23
- 三、校下に住む人々
 - (一) 住む人が六倍に 33
 - (二) 団地ができるまで 35
 - 1 山と谷だった団地 35
 - 2 はじめての大きな団地 37
 - 3 東へ広がる団地 39
 - (三) 名古屋に近い団地 41
 - (四) 会社員が多い校下 43
 - (五) 団地の人の買い物 47
- 四、健康でゆたかな生活
 - (一) 長い旅をしてとどく水道 55
- 五、鵜沼第三小学校のうつりかわり
 - (一) 学校のはじまり 71
 - (二) 戦争があつたころの学校 74
 - (三) 鵜沼三小のできる前 77
 - (四) 鵜沼三小十年のあゆみ 79
- 六、むかしの鵜沼
 - (一) 金縄塚をつくった人々 83
 - (二) 信長の天下統一と鵜沼城 87
 - (三) 鵜沼を通った中山道
 - 1 今の中山道を訪ねて 91
 - 2 中山道を通った人々と宿場をささえた人々 95
- 七、ひらけてきた鵜沼
 - (一) 発達してきた鉄道 99
 - (二) 貞照寺と貞奴 103
 - (三) 戦争のころの鵜沼 107
 - (四) 鵜沼のあした 111
- 「ふるさと鵜沼」歴史年表 113
- ふるさとめぐりイラストマップ 113
- あとがき



校下のまわりの市や町と交通ろ

鉄道) 高山線、名鉄(名古屋鉄道株式会社) 各務原線、国道二十一号線がのびてきています。校下に入ってから名鉄は南にわかれ、犬山線と名前をかえて愛知県へむかいます。国鉄高山線と国道は、そのまま東にむかい、坂祝町、美濃加茂市に入ります。これらのことから、わたしたちの校下は、美濃加茂市とそれにつづく飛驒東濃地方や、愛知県との出入口になっています。いわば、各務原市の東の玄関なのです。鶴沼駅から岐阜駅まで直線きよりで約十七キロメートル、愛知県の名古屋駅まで約二十六キロメートルで、どちらへ行くのにもべんりです。さて、今度は、わたしたちの校下のようすをくわしく調べていくことにしましょう。



各務原市

わたしたちの校下のまわりのようすを、土地のようすや交通ろのようすに気を付けて、調べてみましょう。

一、校下のようす

(一) 各務原市の東の玄関

山と川にかこまれた校下

鶴沼地区は各務原市の東のはしにあり、その中でもわたしたちのすむ鶴沼三小校下は、いちばん東にあります。

校下のまわりのようすを地図で調べてみると、北には坂祝町とのさかいとなつている陰平山(平和観音のある山)があります。この山の後ろには美濃山地が北西にむかつてつづき、各務原市と関市・岐阜市とのさかいになつていきます。東側と南側を木曾川がながれて、愛知県とのさかいになっています。西はひらけて平地となり、各務原台地までつづいています。

東・南・西にのびる交通ろ

西の岐阜市の方から各務原市のまん中あたりを通過して、国鉄(日本国有

鶴沼第三小学校のいち	
東けい	136° 57' 7"
北い	35° 24' 1"
海ばつ	68.4m

土地のよう
すどつかわれ
かたに気をつ
けて、かんさ
つしましょう。

(二) 屋上から見た校下

山すそにひろがる家々

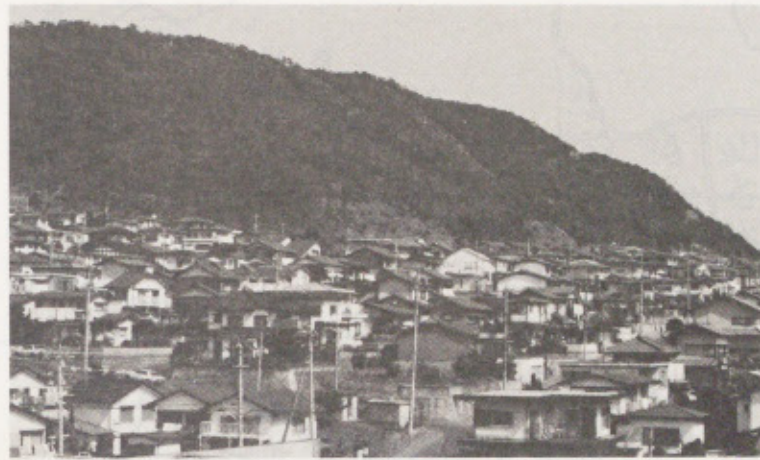
わたしたちの校下をどのようにして調べていくか、話しあいました。

「高い所へあがったら、校下のようすがよくわかるのではないかな。」

「屋上へ行ってみようよ。」

屋上にあがって、まず北の方から見ることにしました。北には、校下で一番高い陰平山（二百三十四メートル）が大きくよこたわっています。そして、団地をとりかこむように、東には宝積寺山（どんぐり山）、南には大塚山がつづいています。これらの山すそには、ぎっしりと家々がたちならび、鶉沼台団地・新鶉沼台団地となっています。

陰平山



北東→



←北西

北

木曾川にそって

山があつて屋上からはみえないけれど、木曾川ぞいに人々が生活しています。

北東には貞照寺団地と貞照寺、東には古くからの住たくと畑、南東には大きなぼうせき工場があります。南の山のむこうには、

木曾川をのぞむようにいろいろな会社の保よう所や社員りようがたっています。そして、それらにそつて国鉄高山線と国道二十一号線が通っています。



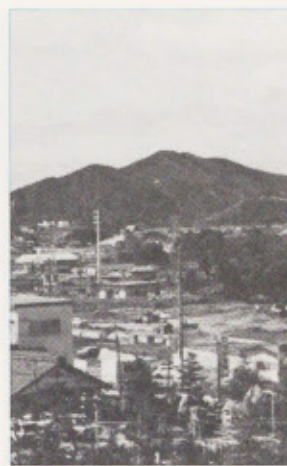
宝積寺町のようす

各務原台地



南西

伊木山



平地にひろがる町なみ

南の方を見ました。たくさんの家々にまじって、アパートやお店などの大きなビルが見えます。駅ははっきりしませんが、たてもの間から電車や車の動くのが見えてきます。国道は、たくさんの人や車が行き来してにぎわっています。

その左の方には、城山と犬山城がむかいあってたっています。その間をながれてきた木曾川は、右の方の伊木山のよこあたりで、屋上から見えるようになります。

木曾川には、城山のかげに犬山橋があり、その右には、ライン大橋が見えています。この二つの橋は、各務原市と愛知県をむすぶたいせつな役目をはたしています。

ライン大橋

犬山城

城山



南



校下の絵地図

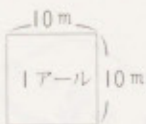
西の方をみると、田畑がひろがり、各務原台地までつづいています。だいたい駅より西は、鶉沼第一小学校の校下なので、鶉三小の校下となつているのはこの平地のごく手前の所までです。校下のなかで、このあたりには、田んぼがわずかだけのこっています。調べてわかったことを絵地図にまとめてみましょう。



水の少ない合戸池

合戸池などのため池は、雨や山からのわき水にたよっています。そのため、少しでも日でりがつづく、田へ引くための水がなくなってしまう。田んぼのいねがかわってしまうと、農家の人は、生活することができません。人々は、なんとか雨がふるように、神に祈りました。

まず、東町の赤坂神社に行きました。ここは、土の神、水



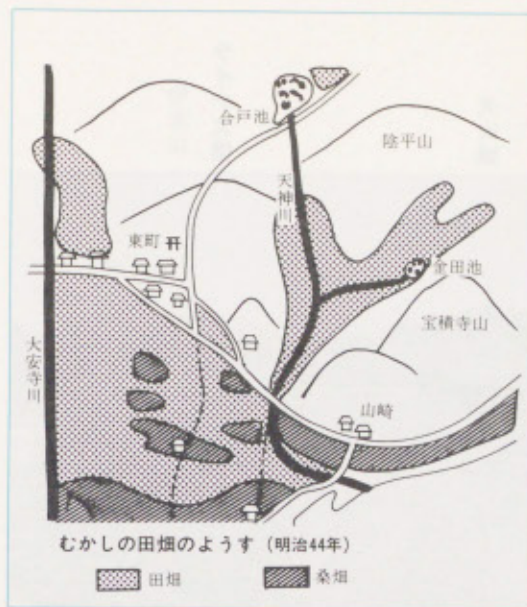
一つの水田は、それほど大きくありません。三アールから五アールぐらいで、セアールもあれば、広い方でした。田んぼへ入れる水は、合戸池、金田池というため池のものなので、水の使い方について、農家の人たちが話し合って決めていました。たとえば、「ため池の水は、つゆあけの三日目におとす」ことが決まっております。水がなくなりにように気をつけていました。

日でりと雨ごい

合戸池などのため池は、雨や山からのわき水にたよっています。そのため、少しでも日でりがつづく、田へ引くための水がなくなってしまう。

田んぼのいねがかわってしまうと、農家の人は、生活することができません。人々は、なんとか雨がふるように、神に祈りました。

まず、東町の赤坂神社に行きました。ここは、土の神、水



上の地図は、鶉沼台や新鶉沼台の団地ができる前のようすをあらわしています。陰平山と宝積寺山にこまれたところに水田があります。合戸池から流れ出る天神川や、金田池からの谷川にそって、水田がつくられていました。そのため、一つ

谷川ぞいの田んぼ

ついていたのです。



学校ができる前にあった田んぼ (美志奈写真館提供)

二、校下の人々のくらし

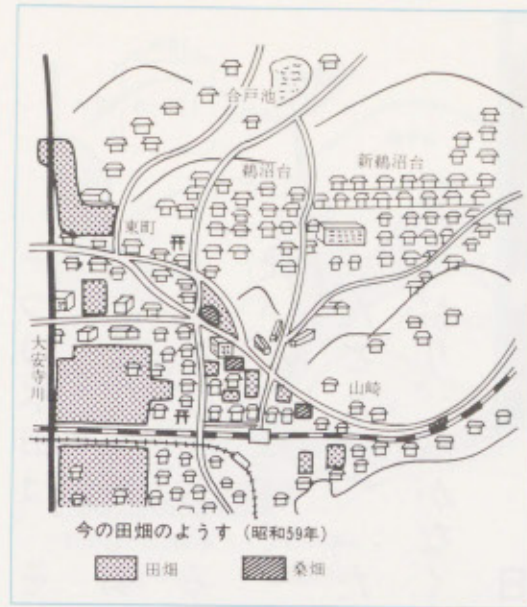
(一) 米づくりのためのたたかい

鶉三小校下には、水田が少なく、東町にわずかに残っているだけです。けれど、十数年前までは、学校のたっているあたりも、水田が広がっていたのです。

どんなところに水田があったのか調べてみましょう。

雨ごいをす
る農家の人の
気持ちを考え
てみよう。

1反=10アール



の神、天の神などをまつっているからです。そして、鶉沼西町の二ノ宮神
社へも、おまいりに行きました。それでも、雨がふらないときは、八木山
の愛宕神社へ、たいまつをもって雨ごいに登りました。

一日に一反をたがやす

むかしの米づくりは、今のようにはトラクターや耕耘機もないので、ほと
んど人の力で仕事をしていました。田をたがやすのも、くわ一本です。
「一日に一反をたがやさない、一人前ではない」といわれていましたが
とてもたいへんな仕事です。

手や足はポンポンにはれ、腰はいたくてしかたがな
かったそうです。

田植えから稲かりまでのあいだに、三回おこなう草
とりも、つかれる仕事です。とくに、稲が大きくなっ
ている三回目の草とりが、いちばん大変でした。稲を
たおさないように気をつけて、稲と稲のあいだをある

き、草を一本ずつとるのです。

腰をかかめているので、腰はいたくなり、稲
の葉先で、目をつくこともありました。

このように、苦勞しながら田んぼを守ってき
ましたが、団地ができたために、しかたなく農
業をやめた農家も少なくありません。

洲原神社の虫よけのお札



けれど、新しい水田を別の
ところに買い、これからも農
業を続けていこうとする農家もあります。



今は田うえもきかいて

大沢波夫さんの話

むかしは、米づくりも神様にたよることが多かった。雨ごいだけじゃなく、台風がきたときも、まじない
をしていた。台風が近づいてくると、私の父は、かまを竹の先にむすんで、それを田んぼに立て、風にむか
って「ホーイ、ホーイ」とさげんでいました。それに、うんかという稲の害虫をふせぐため、美濃の洲原神
社まで、虫よけのお札をもらいに行きました。それを竹にくくって、田んぼにたてて虫よけをしていたころ
もありました。



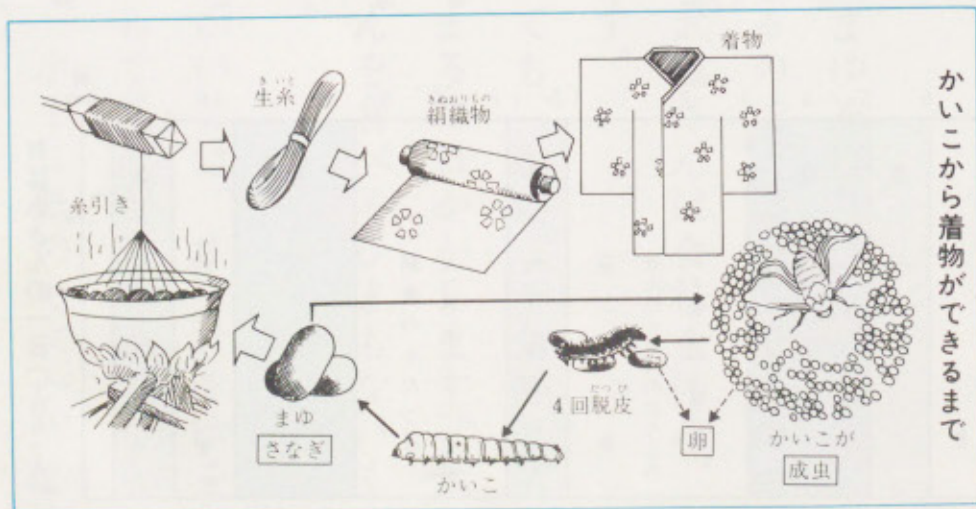
山積みになった桑をはこぶおばさん

九月のはじめ、たまごからかえって一週間ほどたったかいこを、大伊木の共同飼育所から約十二万びき買ってきます。大きさは、一センチメートルたらずで、家のおもてにあるかいこ小屋だけで飼うことができます。

それから毎日、かいこのえさになる桑の葉をとって、かいこに与えます。

桑は、はさみで枝ごと切り、たばねてトラクターの荷台いっぱい積みあげます。よいまゆを作らせるためには、とりたての新しい桑の葉を食べさせることが、大切なのです。

かいこが大きくなって、桑をよく食べるようになります。おばさんは、



かいこから着物ができるまで



かいこの世話をするおばさん

かいこを飼う農家
(鶴沼地区)

昭和1年	738戸
10年	644戸
30年	591戸
58年	24戸

かいこを飼う農家がへってきたのはなせでしょう。

(二) かいこを飼う農家

貞照寺の南の畑に、せたけの低い木がたくさん植えられています。この木は桑で、葉がかいこのえさになります。

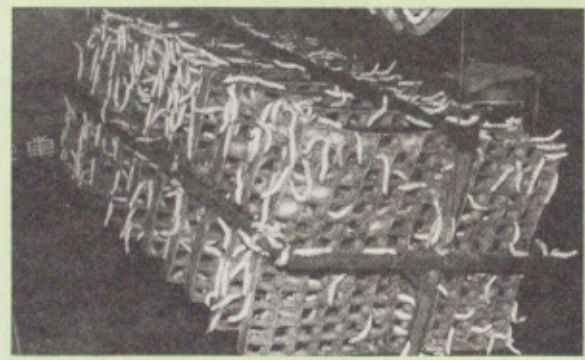
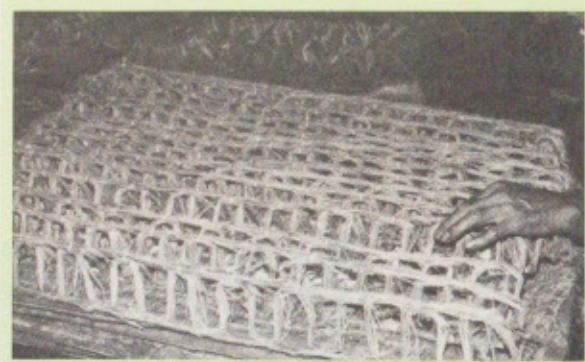
鶴沼は、台地や砂地が多く、田んぼがあまりできず、このような桑畑がたくさんありました。けれども、かいこを飼う農家はだんだん少なくなり

今では、鶴沼地区で二十四戸の農家だけになってしまいました。

そのうち、宝積寺では三戸の農家で、今もかいこを飼い、武藤鉦満さんも、そうした農家の一つです。

朝の四時半から仕事

武藤さんの家は、五十年ほど前からこの仕事をはじめ、今は武藤さんの奥さん、おじいさん、おばあさんの三人で、かいこの世話をしています。武藤さんは、会社につとめているので、日曜日ぐらいしか世話ができません。



上 むかしからのわらのモズ 下 回転ぞく

【モズ】
かいこがまゆをつくるための道具

よいまゆにするため、どんな工夫をしているでしょう。

「サ」と、雨がふっているように、かいこが桑を食べる音が聞こえてきます。まゆは湿気がきらい。かいこを飼いはじめて、十八日ぐらいたつと、まゆを作りはじめます。十二万びきのかいこが、いちどに糸を出しはじめるので、はやくモズの中に入れていいまゆになりません。そのため、武藤さんは会社を休み、子どもたちも、学校から帰ると、すぐに手伝います。

家族みんなでやっても、かいこを全部モズの中に入れるのに、まる二日かかります。武藤さんたちは、ごはんを食べるひまもないくらいにはたります。

モズの中に入ったかいこは、すぐにまゆを作りはじめます。わらであんだモズは、うらのまゆ小屋におかれ、ボール紙のモズが、まわるようになった回転ぞくは、まゆ小屋だけ



さかんに桑を食べるかいこ

武藤さんの飼っているかいこは、まゆを作るまでに、全部で三トンも桑の葉を食べるのです。かいこが大きくなってくると、飼う場所も広がってきます。おもての小屋がいっぱいになり、うらの小屋や、のき下にむしろをしいて、かいこを飼います。耳をすますと、「ガサガサ、ガサガ

朝 4時

夜 7	6	5	4	3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	朝 4時
タ	桑	桑				昼	桑		朝食のかたづけ		桑	朝	桑		
食	入	と				食	入		せんたくなど		と	食	入		
	れ	り				意	れ				り		れ		

おばあさんの一日(十日目ころ)

まゆを出荷
する時、武藤
さんはどんな
気持ちでしょ
う。

でなく、家の玄関や二階にもつるしてあります。「かいは風で飼え」といわれるぐらい、かいは湿気をきらいいます。いまゆができるかどうかは、まゆを作るときの温度と湿度にかかっていいます。武藤さんは、まゆ小屋の中にコンロをおき、扇風機で風を送って、湿気がこもるのをふせいでいます。

まゆの出荷

まゆを作りはじめてから、一週間でできあがります。つぎは、まゆをモズからとり出すまゆかきです。ボール紙のモズからは、木の型にはめておし出すのでらくにできます。けれど、わらのモズからは、一つ一つ手でとり出すので手間がかかります、わらのために指先がささくられてしまいます。

とり出したまゆのまわりについている糸くずをとりのぞき、大ききや、よごれを調



モズからまゆをとり出す



まゆをはかりではかる武藤さん

べて、いよいよ出荷です。

十月のはじめ、朝六時に宝積寺公民館に、三軒の農家からまゆが集まってきました。大きな袋につめられたまゆを、はかりにのせて、慎重に目もりを読みます。

こうしてまゆは、関市のまゆ問屋に売られていきます。ようやくまゆの出荷をおえた武藤さんは、春のかいこのために、モズを消毒したり、桑畑の手入れをしたりして、冬をむかえるのです。

武藤さんは、か
いこをおかいこさ
んとよんで、大切
にあつかっています。

武藤さんのおばさんの話

おかいこさんは、春と秋の二回しか飼っていないけど、短い間に仕事が集中するので、人手がたりなくて大変です。朝早くから桑を入れたり、取りに行ったりするのは、ねむくてつらい仕事です。けれど、おかいこさんは生きてるので、手をかければかけただけいまゆをつくってくれます。温度や湿度をいつも気をつけてやらないと病気にもかかるのです。この仕事はつらいこともあるけれど、桑畑もあるのでおじいちゃんたちとやれるだけ、つづけていきたいと思っています。

校下の大きな工場について調べてみましょう。

(三) ツヅキボウをたずねて

工場はすばらしい景色の中

山崎と宝積寺ほうしやくの間に、ツヅキボウ鵜沼工場があります。この工場は、日本ラインとして名高い「ひだ木曾川国定公園」の中にあります。木曾川が工場のすぐ南を流れ、とても景色のよいところに位置しています。

しき地は、野球場が七つも入るほどの広さです。中には、芝生しばふがしきつめられ、川原との間には、広い松林があり、とても緑ゆたかな美しい工場です。

工場の建物は低くしてあり、えんとつ



日本ラインとツヅキボウ

この工場で作られているスフ糸とわたしたちのくらしの結びつきを考えてみましょう。

や電柱は建てないようにしています。それは、工場が美しい景色のじやまにならないように考えているからです。

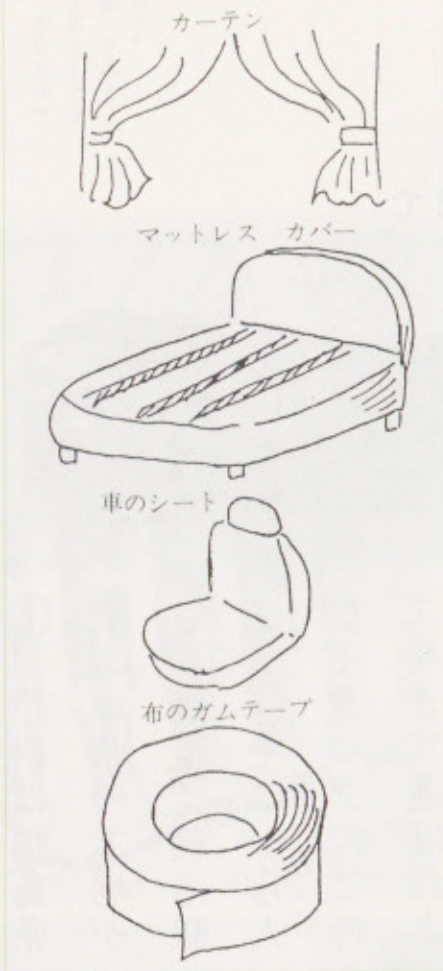
一日に作られる糸の長さは地球の何周分？

この工場では、スフ糸という糸を作っています。スフ糸は木から作られたわたを原料にして作り出されます。このスフ糸は、ねだんが安く、じょうぶで、そめやすいので、カーテンやマットレスのカバーなどに使われます。

この工場で一日に作られるスフ糸の長さは、およそ二百九十八万キロメートルにもなります。これは地球を七十四周半もするほどの長さです。

この工場だけで、日本全国で作られているスフ糸のおよそ二〇パーセントを作っています。

スフ糸の使われているもの



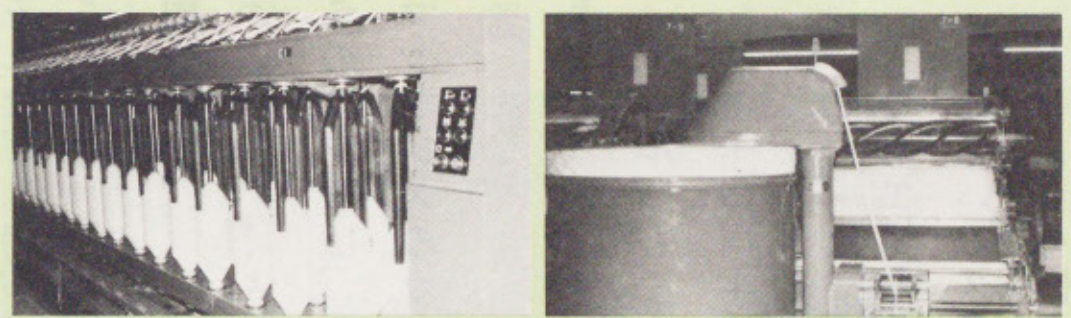
スフ糸がで
きるようすを
調べてみまし
よう。

スフ糸のできるまで



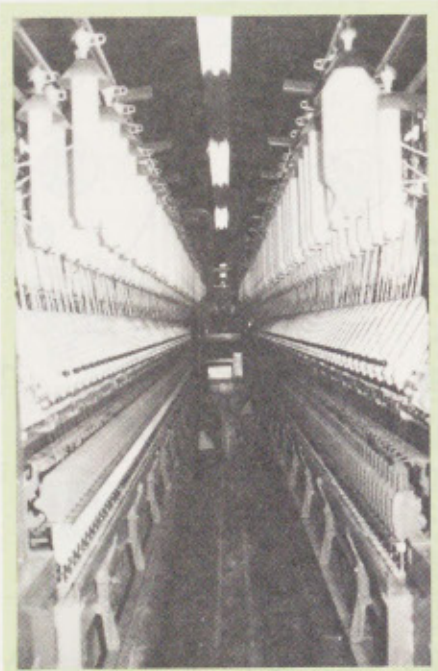
① 原料は福島県
や山口県の工場か
ら、鉄道で鶴沼駅
まで、そこから大
型トラックでこの
工場まで運ばれま
す。

② 原料はわたの
かたまりのような
感じですが、でも、
重さは二百キログ
ラムもあります。
機械でほぐして、
やわらかくします。

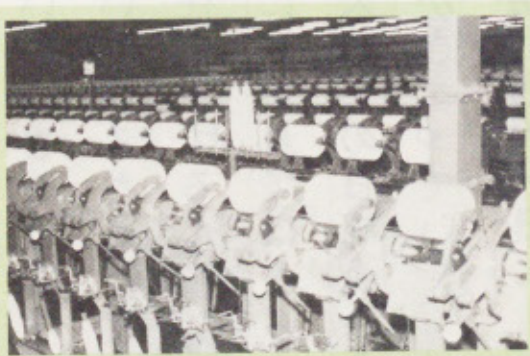


③ やわらかくほ
ぐされた原料をよ
りあわせて、小指
ぐらいの太さのひ
もにします。

④ よりあわせた
ひもを、つつにま
き上げます。

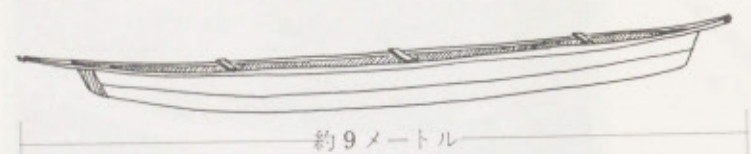


⑤ ひもが、三つのローラーを通
る間に細い糸によりあわされます。



⑥ できた糸をまき
直して、糸のかたま
りにします。できた
製品は糸の太さによ
って分けられていま
す。

⑦ できた製品をダ
ンボール箱につめて、
大型トラックで出荷
します。出荷先は、
おもに、大阪府（泉
南）や愛知県（三河）
の織物屋さんです。



船を作るた
めにどんなこ
とを気をつけ
ているのでし
ょう。

たりしていましたが、戦後、ライン下りの会社に
船大工として二十年あまりつとめました。
その間、何そうもの川船を作り、退職してから
も、たのまれては鮎船を作ったり、遊らん船を修
理したりしています。

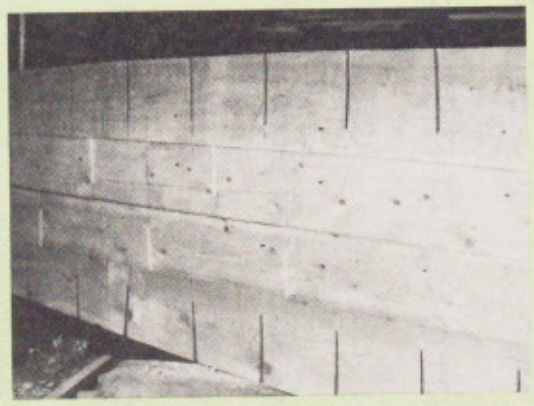
生きた船を

船に使う木は、クサマキという木で、油分が多
く、水に強くてなかなかくさりません。じょうず
にのれば、三十年はもつそうです。

横山さんは、自分で木材市場に行き、いい木を
さがし、そこで必要な大きさに切ってもらいます。
船を作るとき、いちばん心がけるのは、『生き
た船』を作るといふことだそうです。川の流れが
急でも、その流れにのり、いろいろにかかってく



石のおもりでそりをつける



そ二板をはりあわせる



仕事中の横山さん

川の仕事に
は、どんなも
のがあてし
よう。

(四) 川に生きる人々

1 川船をつくる船大工

川魚をとったり、玉石をとったりして生活する人にとって、川船はなく
てはならないものです。けれど、今では、川船を作る専門の船大工さんが
ほとんどいなくなっていました。

たった一人の船大工

宝積寺の横山実さんは、六十才をすぎた今も、一人で川船
を作る船大工の仕事が続けています。
宝積寺には、むかしから川で生活する人が多く、横山さん
のおじいさんも、木曾川のいかだ流しの船頭でした。そうし
たことで、横山さんもよく船にのり、十三才から船大工の仕
事を始めました。

しかし、戦争中は、ふつうの大工をしたり、工場を経営し



船かぶせの式

横山実さんの話
 いい船を作ろうと思ったら、いい材料や道具が必要だね。マキの木も、太いものがないなってきたし、あっても高くて手に入らないようになってきた。今は古い船にガラス繊維を混ぜた合成樹脂をふきつけた船がふえてきたが、そんな船は、水が船からはなれず、スピードが出ないし、ライン下りならお客さんに水がかかってしまう。木の船なら、水を切って進むので、急流でもかじがとりにやすく安全だね。船大工も少なくなっただけ、仕事があるかぎり続けたいね。

もつときびで、ぬけなくなるのです。
安全をいのる船かぶせ
 こうして、新しい船ができあがると、安全をいのる『船かぶせ』という式をします。この日は、近所の男たちがあつまり、横山さんの船小屋から新しい船を木曾川にかつき出します。

木曾川にうかべた船を、わざと三回ほどひっくり返します。ひっくり返った船は、もうひっくり返らないというおまじないです。川原では、カンナくずをもやし、スルメをあぶって酒をくみかわし、船のできをほめたたえるのです。



船小屋からはこび出される船

る力を、船が吸いどってしまいうようなものだそうです。
 たとえば、板をはるときでも、板のむきを考え、しかも、板の間にすきまがでないように、しっかりとはりあわせなければなりません。
 横山さんは、設計図などまったくかかず、すべて頭の中で注文された船を作りあげます。『長年のかん』で、スマートな、その美しい川船ができるのです。

横山さんの使う大工道具には、自分で考えたものが、いくつもあります。深くくぎを打つためのドリルや、はりあわせた板をしめつけるジャッキなどは、自慢のものです。また、くぎやかすがいも、鍛冶屋に特別注文して作らせた強いものをつかいます。それでも気にいらないと自分で作りなおす念のいれようです。

くぎを打つときも、わざとしお水につけてさびさせてから打つのです。そうすると、さびのためぬけにくくなり、船を使っているうちに、くぎが

宝積寺に船頭が多いのはなぜでしょう。

〔名勝〕
景色のよいところ。

2 ライン下りの船頭さん

木曾川の太田から犬山までは、日本ラインとよばれ、国の名勝にも指定された景色の美しいところです。この日本ラインを、遊らん船で下る『ライン下り』は、約六十年前に始まりました。

命をかけた仕事

宝積寺には、ライン下りの船頭をしている人が、十数人おり、武藤哲義さんもその一人です。

武藤さんは、十五才のときに船頭になって、もう二十年近いベテランですが、まだまだ若い方だそうです。

ライン下りは、流れの急な岩場を、かい一本で船をあやつって下るレジャーですが、船の動きをちよつとまちがうと、お客さんといっしょに、命をおとしてしまいます。

武藤さんのお兄さんも船頭でしたが、事故でなくなりました。まいました。



かいをあやつる武藤さん(18才ごろ)

〔へさき〕
船の一番前。
〔かい〕
船をすませる棒。先が平たくなっている。

今から十五年ほど前、雪どけ水で水かさが増え、流れもはやくなっていた五月のことです。お兄さんは、船のへさきに立ち、かいをあやつっていました。ところが、船が急流にまきこまれ、岩にぶつかりそうになりました。船をぶつけてはならないと、力いっぱい岩におしあてました。しかし、そのかいがおれ、はずみでお兄さんは、水の中へ落ちて消えていってしまいました。

そのころは、今よりも危険な岩場が多く、その事故の二年後にも、宝積寺の船頭がなくなっています。子どもころから、カッパのように泳ぎ遊んでいた川も、水がふえるとおそろしい姿にかわってしまうのです。

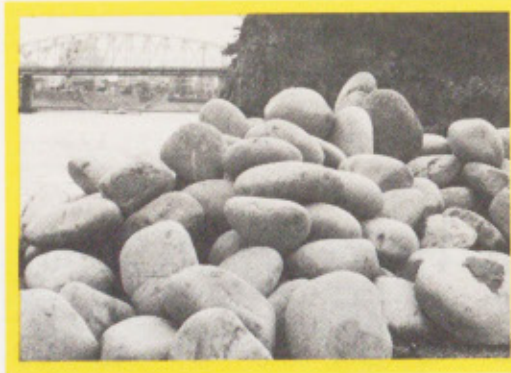
お客さんを大切に

ライン下りのなかで、流れのよいところはハカ所ありますが、お客さんをたくさんのせて



急流を下る船

船頭が、いつも心がけていることはどんなことでしょうか。



川原につまれた玉石

前の川原には、とりあげた玉石がつみあげられています。玉石は、自由にとれるわけではありません。国の許可をもらい、期間と区域が決めます。千田さんは、川の水が少なくなる冬に仕事をします。

冬のあいだの仕事

山崎町の千田富三さんは、父子二代にわたって、玉石とりの仕事を続けています。千田さんの家は、城山の東にあり、家の前の川原には、とりあげた玉石がつみあげられています。



玉石とりの許可標識

玉石を使った家をさがしてみよう。

3 木曾川の玉石とり

古い家の石がきや土台に、大きな丸い石がよく使われています。この石は、玉石といって、木曾川の川底から多くとれます。

三十年ぐらい前は、犬山や鶉沼に、玉石とりを仕事にしている人がたくさんいましたが、今ではかぞえるほどです。

の川下りは、気の休まる時がありません。お客さんをおろし、トラックに船をのせて、やっと一息つくことができます。夏には、お客さんが多く、一日四回もくだります。十年ほど前、「国盗り物語」で岐阜が観光ブームになったところが、いちばんお客さんが多かったそうです。このごろ、少しへっていました。が、修学旅行の生徒や、明治村、リトルワールドにまわる人で、ふえてきました。



トラックにつみこまれる船



武藤哲義さんの話

会社に入ったから、すぐ船に乗せられて練習でした。はじめのうちは一生懸命で、こわいと感じるひまがなかったけど、少し慣れて川の道がわかると、足のふるえがとまらなかつたね。川のおそろしさがわかってきたからでしょう。兄が死んだ時、もう船頭をやっていたけど、やめようとは思わなかつた。この仕事が好きだったからでしょうね。かじとりで一人前になるには、五、六年はかかるかな、はじめは船の中、次にへさき、そしてともりのりができると一人前ということです。船に乗っていてつらいのは、冬の寒さだけ、お客さんが喜んでくれることが、いちばんうれしいですね。

水の中から重い石を

玉石は、小さな船の上から、先が三つにわかれているかぎという道具でひっかけて、船の中に引きあげます。千田さんぐらいのベテランになると手ごたえで、石のよしあしがわかるそうです。

石は大きいほど高く売れ、六十キログラムぐらいのものがいいそうです。けれど、そんな重い石をかかえるのは、たいへんな仕事です。せまい船の上でバランスをとりながら、つぎつぎに引きあげます。

船いっぱい石をつむと二・五トンにもなりますが、よく取れる日には、船に三ばいにもなるそうです。

長年、重い石をかかえてきた千田さんのうでは、ふとく、たくましくなっていますが、ひじがよくまがらなくなっていました。



玉石とりの船は、重い石がたくさんつめるように、船が深くなっています。



玉石とり用の船とかぎ

今では石も少なくなり、玉石を使って家をたてることも少なくなったので、船を出すこともあまりありません。これまでに取った石を、欲しい人に売るぐらいです。

千田さんは、うでをさすりながら、

「あと十年もできんじゃろう。」

と、さびしそうにいいました。



玉石とりのようす (昭和36年)
(美志奈写真館提供)

千田富三さんの話

むかしは、玉石とりは百姓の冬場のいいかせぎになっていてね。いい石をとろうと、朝の二時からおきて美濃太田から八百津の方まで行く人もいた。とくに大水のあとは、石が出てくるので、あらそって取りに行ったもんじゃ。今は、鶴沼では、うちと宝積寺に一軒あるだけじゃ。今は、水がきたのうなって、石がヘドロにかくれて、よく見えん。石にはヒルがいっぱいいる。むかしはこんなことはなかったが。

三十年以上、石をとってきたが、石も安いし、形のいいものだけを取るぐらいしかできまい。わたしでの仕事もおわりじゃが、体がうごくかぎりは、石をとりたいと思ってる。

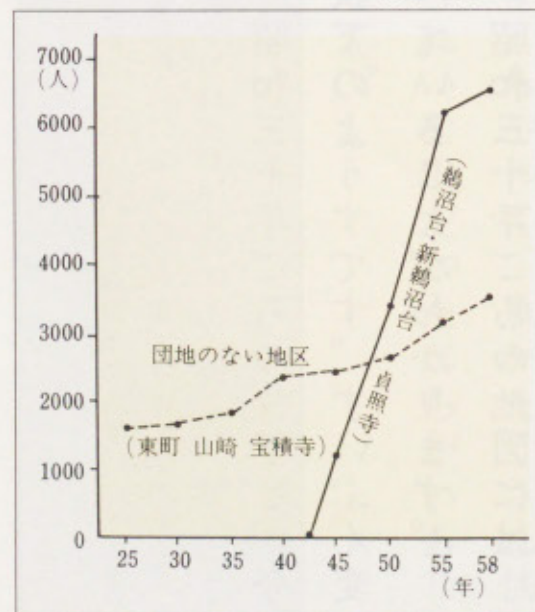
宝積寺の人口の伸びが少ないわけを考慮してみよう。

たからです。昭和四十三年に鶉沼台団地、四十八年に新鶉沼台団地、五十三年に貞照寺団地と、次々に大きな団地ができました。

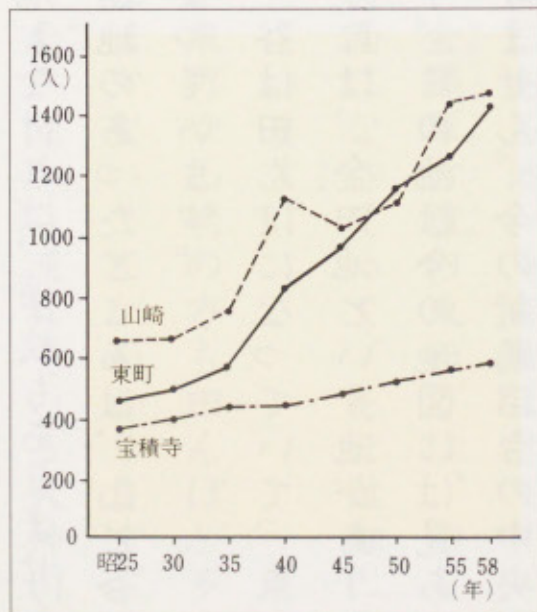
下のグラフを見ると、団地にとっても大ぜいの人々が、短い間に入ってきていることがよくわかります。それに比べて、団地のないところは、三十年間で二倍ぐらいの伸びです。なかでも、宝積寺はあまりふえていません。

今では、団地の人口が校下の人口の約七十五パーセントをしめるようになってきました。

地区別人口のうつりかわり



(昭和58年8月作成)



(昭和58年8月作成)

校下の人口がふえたわけを考慮してみよう。

三、校下に住む人々

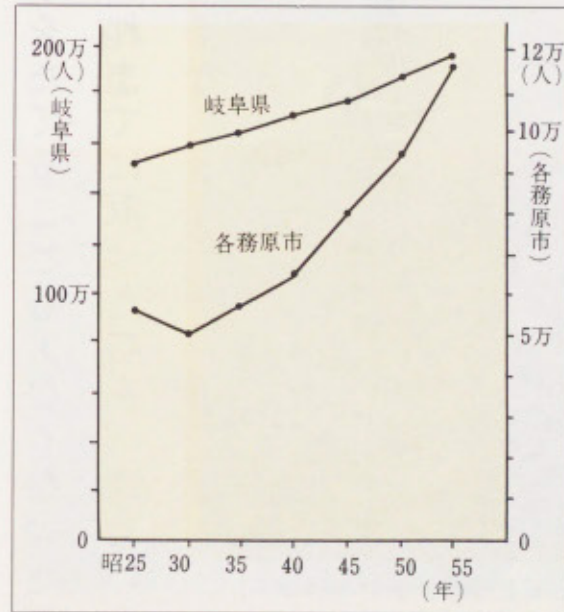
(一) 住む人が六倍に

下のグラフは、校下の人口のうつりかわりをあらわしています。これを見ると、校下の人口が、約三十年間に六倍にもふえているのがわかります。

岐阜県や各務原市の人口のうつりかわりとくらべてみましょう。どんなことがいえるでしょうか。

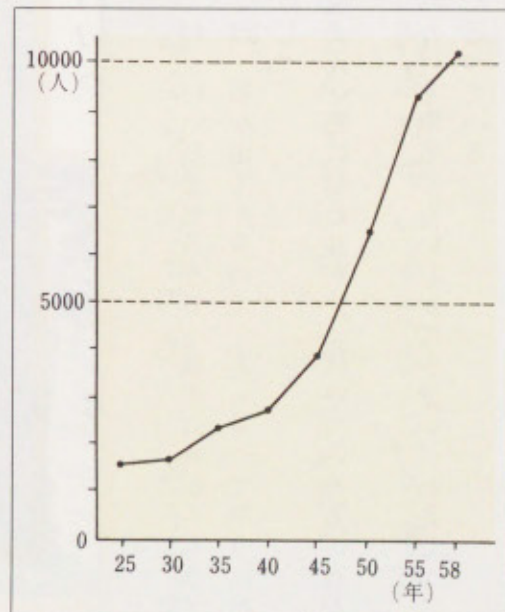
校下の人口は、昭和四十四年ごろから、ぐんぐんふえはじめました。こんなにふえたのは、校下に団地ができたからです。昭和四十三年に鶉沼台団地、四十八年に新鶉沼台団地、五十三年に貞照寺団地と、次々に大きな団地ができました。

岐阜県・各務原市の人口のうつりかわり



(昭和58年8月作成)

校下の人口のうつりかわり



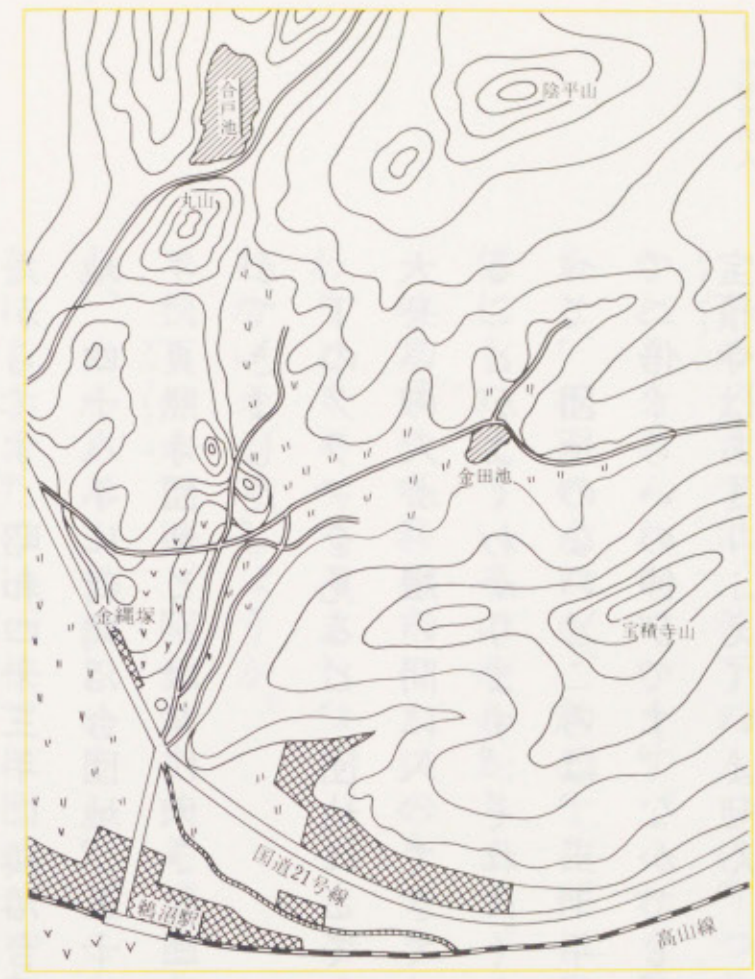
(昭和58年8月作成)

団地のできる前はどんなだったのでしょうか。

(二) 団地ができるまで

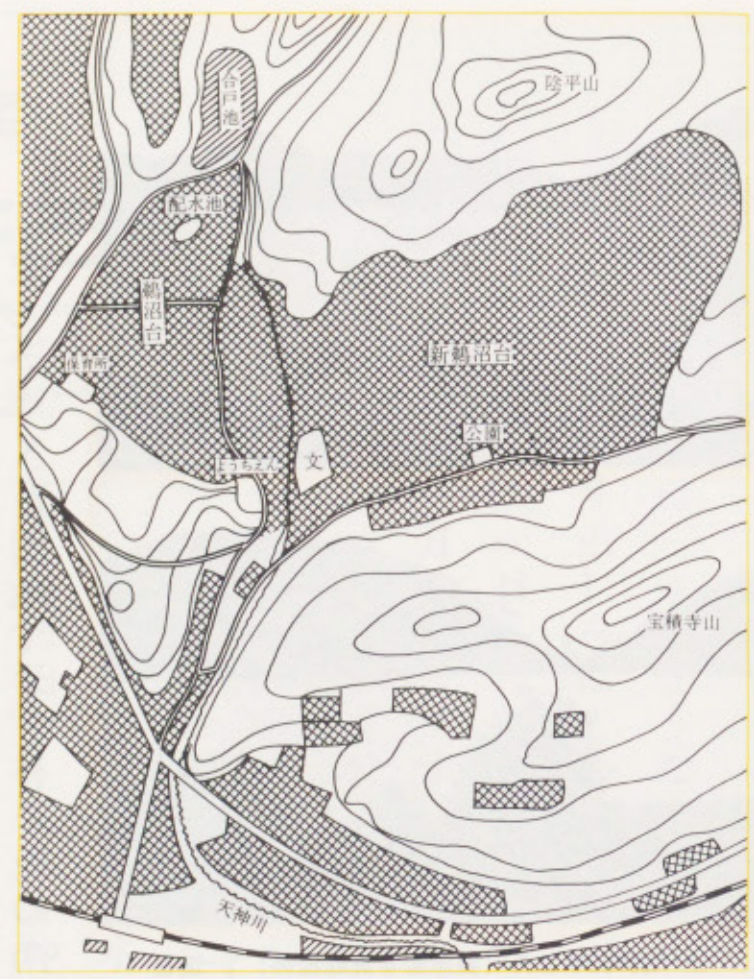
1 山と谷だった団地

左の二枚の地図をくらべてみましょう。



昭和30年ごろのようす (各務原市役所提供の地図より作成)
 ■ は家の建っているところ

昭和三十年ごろの校下と、今の校下のようすです。ずいぶん変わっていることがわかります。昭和三十年ごろの地図には、団地もなければ、学校もありません。団地のあったところは、山と谷になっています。谷は田んぼになっていて、東の方には、金田池という池があります。この池は今の地図には見あたりません。今の新鷺沼台の中央公園



今のようす

園にある池がそのなごりです。金縄塚古墳の東の方は、ゆるい斜面になっていて、そこは畑になっています。東町や山崎の方も田んぼが多く家は少ないことがわかります。合戸池から流れている天神川も今とちがって、魚がたくさん住むきれいな川だったにちがいありません。

二枚の地図をくらべて、どんなことがわかりますか。

松たけだけらの山 (東町のおじさんの話)

わたしが子どものころは、このあたりの山には、そこらじゅうに松たけが出てきて、かごいっぱいになるほどとれました。それを市場へ売りに行っていました。また紙の原料になる「こうぞ」も切ってきて売りに行きました。昭和三十年ごろには、松たけ狩りに来る人が名古屋あたりから、名鉄電車で大せいやって来てたいへんなにぎわいを見せていました。

小林住宅 犬山 うぬま台

名古屋から名鉄特急でわずか29分！
犬山遊園と庭つづき

このうぬま台はなによりも自然の豊穡に恵まれた高級住宅地です。むかしから土地の人の愛い伝いで「鶺沼は東海三浦でいちばん空気のきれいな所」と言われております。

鶺沼台の広告

昭和四十四年になると、
ぞくぞくと人が住みはじめ、
四十五年のはじめに

分に出なくてこまっ
てしまいました。水も十
分に出なくてこまっ
てしまいました。



できつつある鶺沼台 (美志奈写真館提供)

左の広告を
見て人々はど
んなことを思
ったでしょう。

部分です。

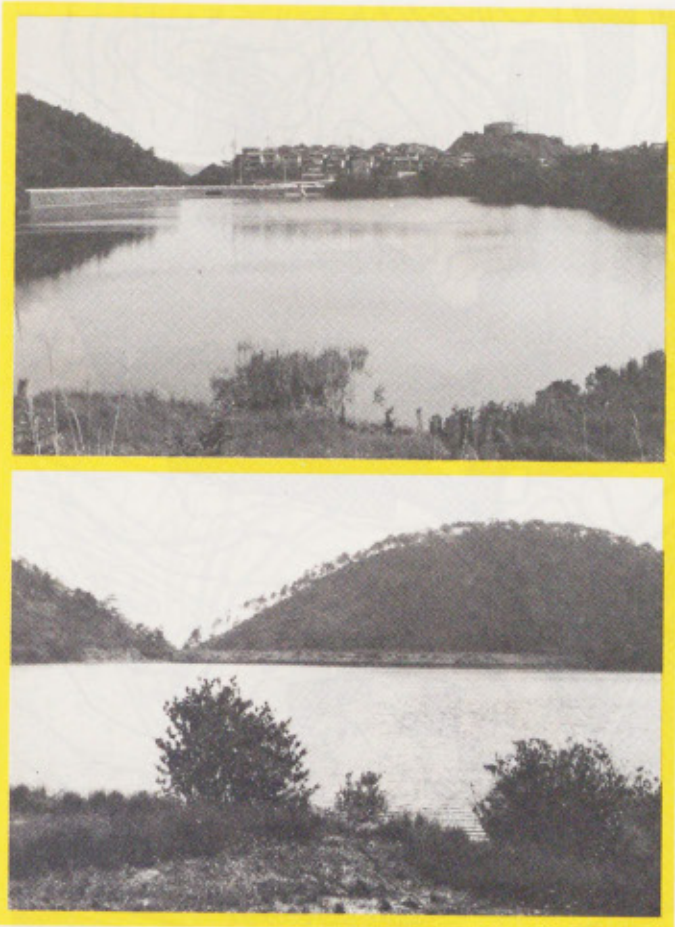
住宅会社は、左のような広告を出して

鶺沼台の売り出しをはじめました。

鶺沼台に人が住みはじめたのは、昭和
四十三年十一月のことです。そのころは
国道から上がってくる道が、ほそもさ
れていない細い道だったため、雨がふる
とぬかるんで、車は通れないようになって
しまいました。

2 はじめての大きな団地——鶺沼台

鶺沼台はど
ういうところ
を団地にした
のでしょうか。



上 昭和30年ごろ (美志奈写真館提供) 下 現在

この山と谷に、団地をつくりはじめたのは、昭和四十三年のことです。これが鶺沼台団地で、各務原市ではじめての大きな団地でした。

鶺沼台は、小林住宅という会社が、合戸池かっこから東町までの山や田畑をけ
ずってできた団地です。合戸池の南にあった丸山という山の位置が、ちよ

うど鶺沼台の一丁目にあたります。
上の二つの写真を見くらべてみると、
変化のようすがわかります。

山をけずったり、土をもり上げた
りする工事は、昭和四十五年までつ
づき、土地がならされたところから、
どんどん家が建っていきました。は
じめに家が建ったところは、今の三、
四、五丁目にあたる、団地の中央の

は、二百けんぐらいになっていました。
このころの鶉沼台の子どもたちは、建てかけの家で遊んだり、うとう峠とうげや宝積寺山へ行ったりして、自然の中でのびのびとできました。

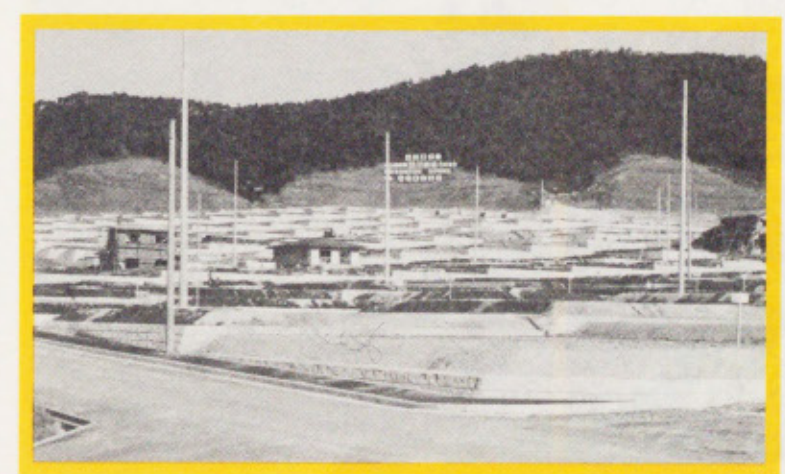
3 東へ広がる団地——新鶉沼台

新鶉沼台は
どんなところ
を、どのよう
に工事をして
つくられたの
でしょう。

昭和四十七年になって、鶉沼台の東にも団地をつくる工事がはじまりました。これが新鶉沼台です。

山と田んぼになっていた谷を、下の写真のよ
うな土地にするには、どんな工事をしたのでし
ょうか。山がけずられたあとがわかります。そ
して、谷には土をうめて、なめらかな斜面にし
ていったのです。

貞照寺へぬける道は、自動車を通れるような



昭和48年ごろの新鶉沼台（松本勲氏提供）

広い道路につくり変えられました。そして、昭和五十三年になると、新鶉沼台の第二団地として、貞照寺の北にも団地がつくられました。これが貞照寺団地です。

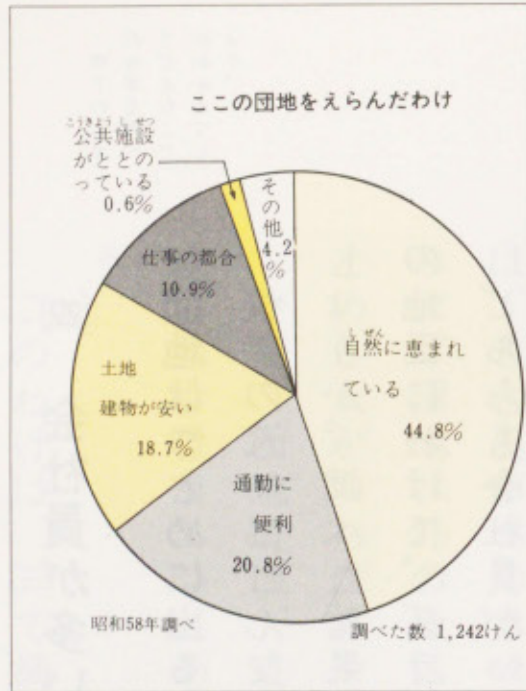
新鶉沼台に、人が住みはじめたころのようすを調べてみました。どんなことがわかるでしょうか。

最初に新鶉沼台へ来た松本さんの話

- 〈来た日〉 昭和四十八年十一月三日
- 〈まわりのようす〉 建てかけの家が一けんあっただけで、道路もほそうされてなくて、がい灯もなかった。
- 〈電気〉 電線がひかれていなかったため、電気は来ていなかった。夜はろうそくを使っていた。
- 〈水道〉 元コックから、直接、水を出して使っていた。
- 〈ガス〉 来てから、二、三日後に通じた。

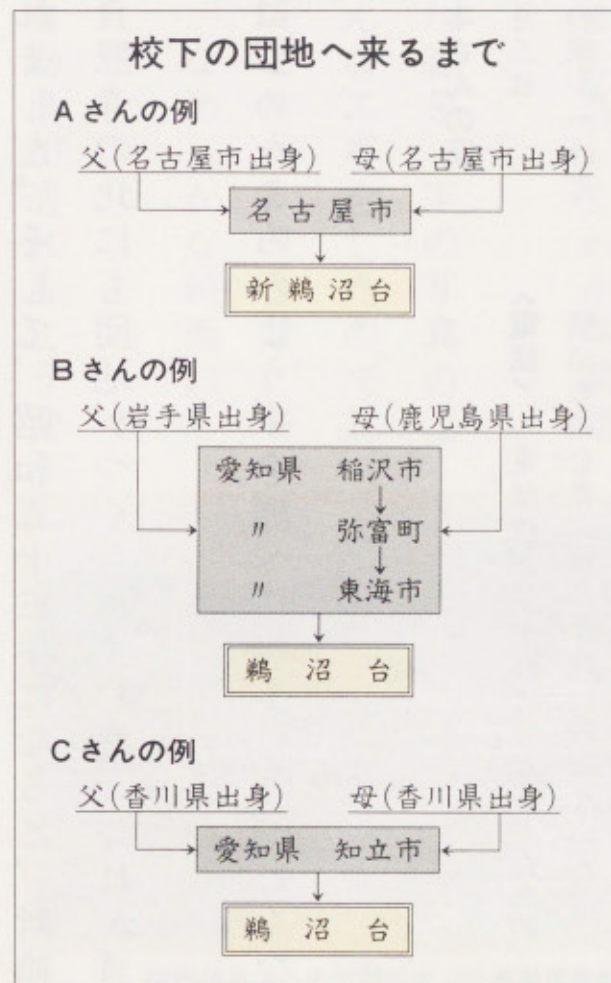
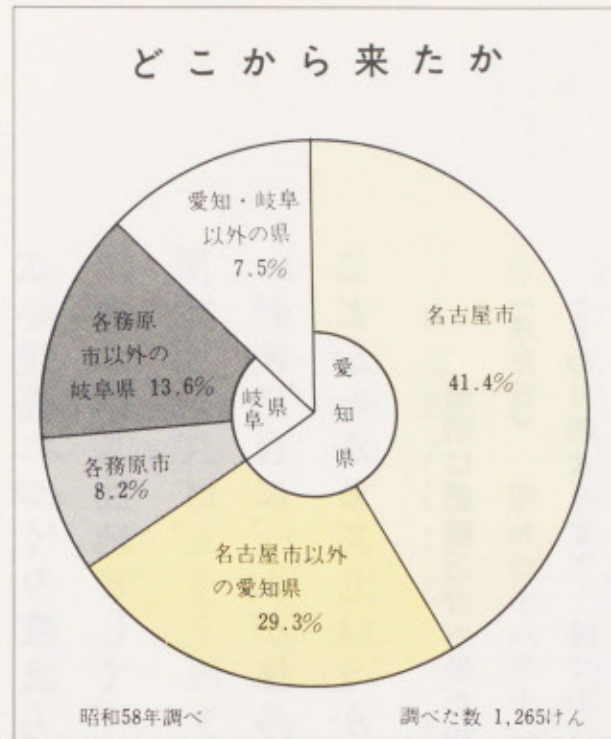
新鶉沼台へ
最初に来た人
の一日の生活
を考えていま
しょう。

- 〈電話〉 電話線がひかれていなかったため、鶉沼台の公衆電話へかけに行っていた。
- 〈トイレ〉 完成していなかったため、鶉沼台のトイレまで行っていた。
- 〈おふろ〉 完成していなかったため、犬山駅前のおふろ屋さんへ行っていた。
- 〈買い物〉 生協のトラックが鶉沼台まで来た。
- 〈ゴミ〉 鶉沼台まで、すてに行った。



美しい自然を求めて（新鵜沼台へ来た人の話）
 わたしは、昭和五十一年に来ました。それまでは、生まれ育った名古屋に父や母と住んでいました。自分で家を建てようと思って、方々をさがしまわっている時に、ちょうど、このあたりを自動車で通りかかりました。その時に、ここなら景色もいいし、名古屋の会社へも通いやすいし、ねだんも手ごろだなぁと思ったのです。住んでみると、やっぱり思ったとおりでした。空気もよく、見はらしもよいので朝はとてもいい気分になります。家族もとても気に入っています。

団地へやってきた人たちが、校下の団地をえらんだわけを調べてみました。左のグラフを見てみましょう。
 まずはじめに、恵まれた自然があげられます。緑の山々と日本ラインとよばれる木曾川が人々をひきつけました。
 次に、名鉄や国鉄のおかげで、名古屋市や岐阜市へとても通いやすいことがあげられます。特に、名古屋市へは特急で二十分しか、かかりません。そして、団地ができたころの校下は、まだ開けていなかったため、土地のねだんも安かったようです。



団地へ来た人々はどこから多く来たのでしょうか。自分の学級でも調べてみましょう。

(三) 名古屋に近い団地
 団地へやって来た人たちは、いったいどこから来たのでしょうか。左のグラフを見ると、愛知県から来た人が七割ぐらいをしめていて、なかでも、名古屋市から来た人が多いことがわかります。愛知県、岐阜県以外では、北は北海道から南は沖縄まで、全団各地から集まっています。

校下の人々の仕事を調べてどんなことがわかるでしょう。

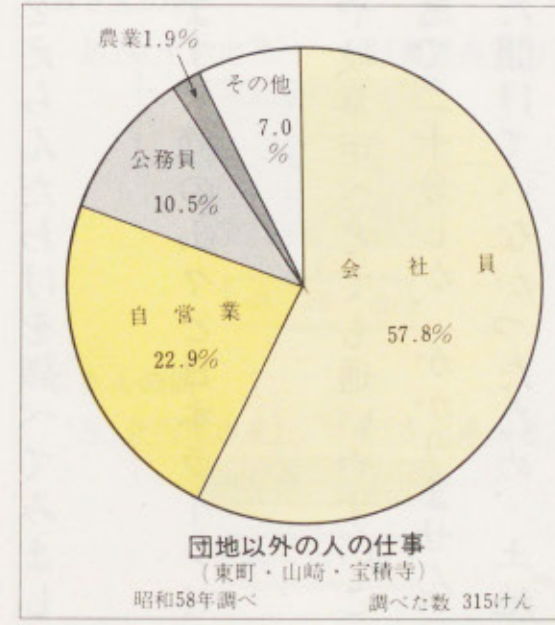
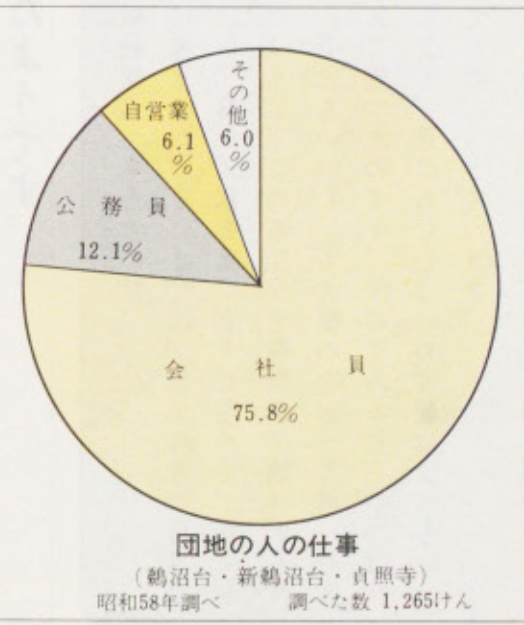
(四) 会社員が多い校下

団地はつとめに出る人ばかり

校下の人々はどんな仕事をしているのでしょうか。調べた結果を、団地と団地以外の地区にわけて、グラフにしてみました。どちらも会社員がいちばん多いことがわかります。

特に、団地では、会社員が多く、公務員などをふくめると、つとめに出る人がほとんどです。

けれども、団地以外の地区では、自分で店や工場をやっている人もかなりいます。また、農業をやっている人も少しいます。



このように、団地と団地以外の地区とでは、大きなちがひがあります。

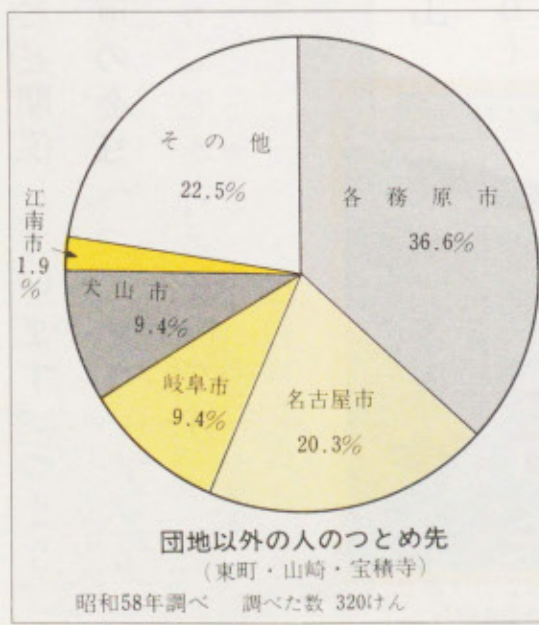
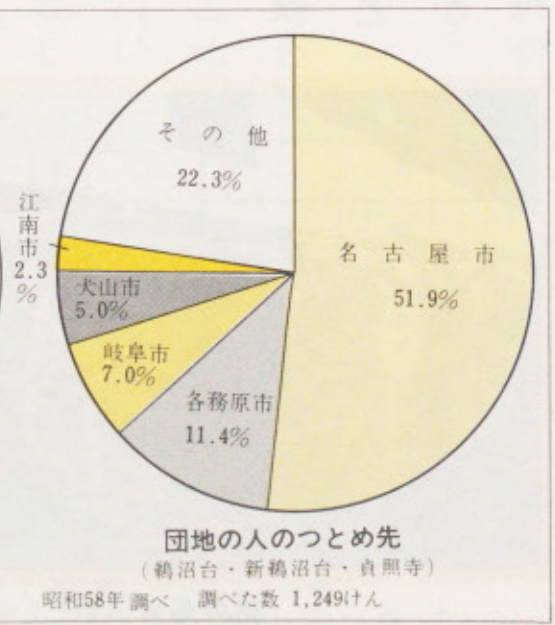
団地から名古屋の会社へ

では、校下の人々のつとめ先はどこが多いのでしょうか。これも団地と団地以外の地区にわけて、グラフにしてみました。

二つのグラフをくらべてみると、団地では、名古屋市へつとめる人がいちばん多いのに、団地以外の地区では、各務原市へつとめる人がいちばん多いことがわかります。

なぜ、団地では、近くの各務原市よりも遠い名古屋市へつとめる人が多いのでしょうか。

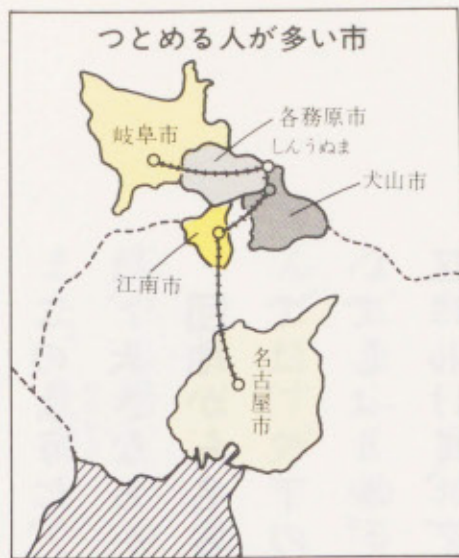
このわけは、(三)で調べた、「団地には名



古屋市からやってきた人が多い」ということと関係しています。つまり、もともと、名古屋市に住んでいて、名古屋市の会社へつとめていた人が、住宅を求めて、この団地へやってきたということがいえそうです。

電車が人々の足

前のページのグラフでは、校下の人々は、名古屋市以外には、各務原市、岐阜市、犬山市、江南市へ多くつとめていることがわかります。



なぜ、これらの市が多いのでしょうか。上の地図をみてみましょう。これらの市が、鶴沼と名鉄で結ばれていることがわかります。



朝の新鶴沼駅

〔転きん〕
同じ会社のうち
でつとめる場所が
変わることを

つまり、これらの市が、校下から、つとめやすいところだといえます。

遠くの県へつとめる

名古屋市周辺には、全国各地に支店や工場を持つ大きな会社が多くあります。そこにつとめる人の中には、遠くの県へ転きんになって、ひっこしていく人もいます。なかには、ひっこしをしないで、おとうさんだけが、一人でむこうへ行ってくらすところもあります。

行き先	人数	行き先	人数
岐阜	2	群馬	1
愛知	3	京都	1
三重	6	兵庫	1
福岡	1	タイ	2
富山	1	サウジアラビア	2
長野	2	イギリス	1
東京	3	ドイツ	1

家をはなれてつとめに出ている人の数
(昭和59年度 鶴三小児童の父母について調べたもの)

群馬県でひとりくらす (名古屋から転きんになった人の話)

昭和五十八年の四月に、群馬県の前橋の工場へ転きんになりました。期間が一年間だけだったので、ひっこしはしないで、わたしが行くことになりました。むこうでは会社の家族アパートに住んでいます。食事も自分で作っています。はじめは、なれないことばかりで、たいへん苦労しました。月に一、二回、こちらへ帰ってきます。帰るだけで六時間ぐらいかかり、費用も往復で二万円ぐらいかかるので、そんなに帰れません。それまで、子どもたちと遊ぶことがあまりなかったのが、月に一、二回しか会わないので、よく遊ぶようになりました。

丸子団地方面	
丸ノ内入口	10:20
丸子駅前入口	10:30

小林住宅(鶴沼台)緑苑方面	
丸ノ内入口	10:20
新保町入口	10:30
高台(金岡池)	10:40
北町(新保町)	10:50
花見	11:00
太田南口	11:10
丸ノ内	11:20

宝積寺・新鶴沼台方面	
丸ノ内入口	10:20
新保町入口	10:30
高台(金岡池)	10:40
北町(新保町)	10:50
花見	11:00
太田南口	11:10
丸ノ内	11:20



時こく表

買い物バス

「たくさん売るから、安くできるんだわ。」
 「いろんなコーナーがあつて、一度にそろろうよ。」
 「広いちゅう車場があつて、車で行けるよ。」
 スーパーでは、その外にも、お客さんを集めるくふうをしています。それに、車を使えば近いということ、よく利用されているのです。

団地とスーパーをつなぐ買い物バス

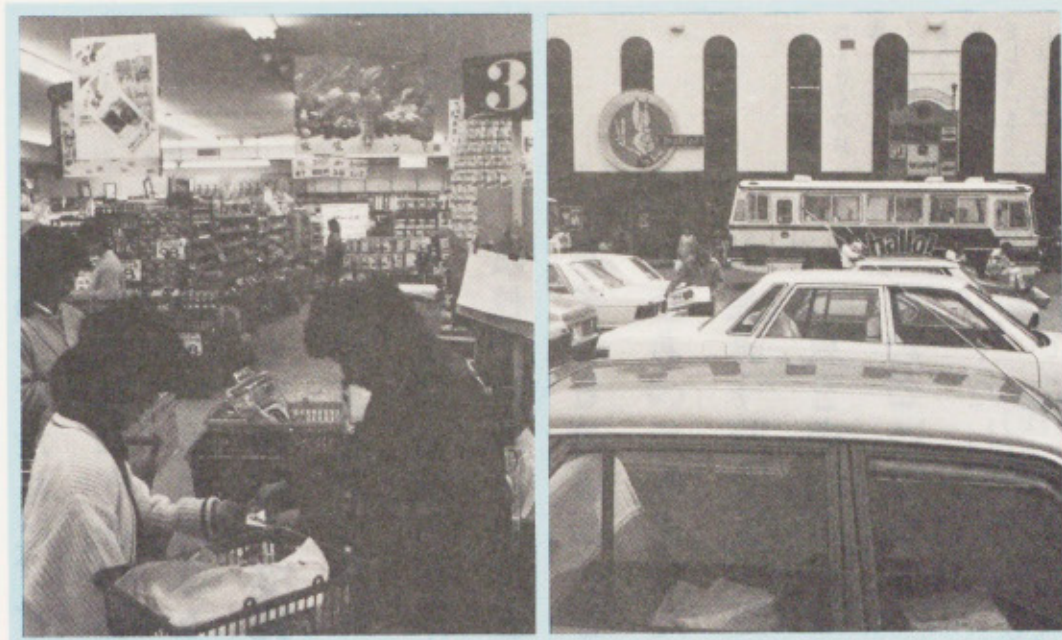
広いちゅう車場のあるスーパーはたくさんありますが、買い物バスまで走らせているスーパーは多くありません。ところが、わたしたちの校下へは二つのスーパーのバスが来ています。もう少し、くわしく調べてみることにしましょう。

まず、運転手さんにインタビューしてみました。「鶴三小の方だけでなく、いろいろな団地へも行ってらるんですよ。どこをたくさん回るかは、会社の人と相談しています。」

今度は、店長さんにお話を聞きました。「遠くの方にも来ていただきたいと思います。それに、近くの方でも、重い買い物袋を持って団地の坂をのぼるのは大変です。それで、たくさんの人にお買い物を楽しんでいただくようお願い、バスのサービスをさせていただいています。」

団地へ帰るといってお母さんにも聞きました。「たすかりますね。路線バスもありますが、買い物バスは無料ですから。買い物について郵便局などの用事もすませたりして、便利に使わせてもらっています。」

団地の人にもスーパーの人にもよろこばれ、買



スーパーのなか

スーパーの入口ふきん

8



生協の配たつ車

わたしたちの団地には、買い物バスから配たつ車まで、たくさん車かきまします。そのわけを考えてみましょう。

「わたしは駅前のお屋ですがね、日を決めて売りに来ているんですよ。このあたりに、店がないからね。」
移動スーパーとちがって、一種るいの品物を売っている車も来ます。たまごを売る車や

とうふを売る車などがよく来ます。

電話でとどけてくれる店

近所の店ではないけれど、

電話で注文すると車で配たつしてくれる店もあります。

生活協同組合（生協）は、近所の人の分をまとめて注文すると、その人にまとめてとどけてくれます。

また、食事の材料をそろえて人数分とどけてくれるお店の車も、見かけることがあります。



移動スーパー

近所の店ではお客さんにきてもらうためにどんなふうをしているでしょう。

い物バスは、団地の多い鶴沼地区を毎日走りまわっています。

近所でちよつとした買い物

わたしたちは、スーパーだけでなく近所の店でも買い物をしています。身近かな店には、スーパーとはちがった便利さがあるからです。すぐ行けたり、朝早くからあいていたり、なかには配たつしてくれる店があったりします。

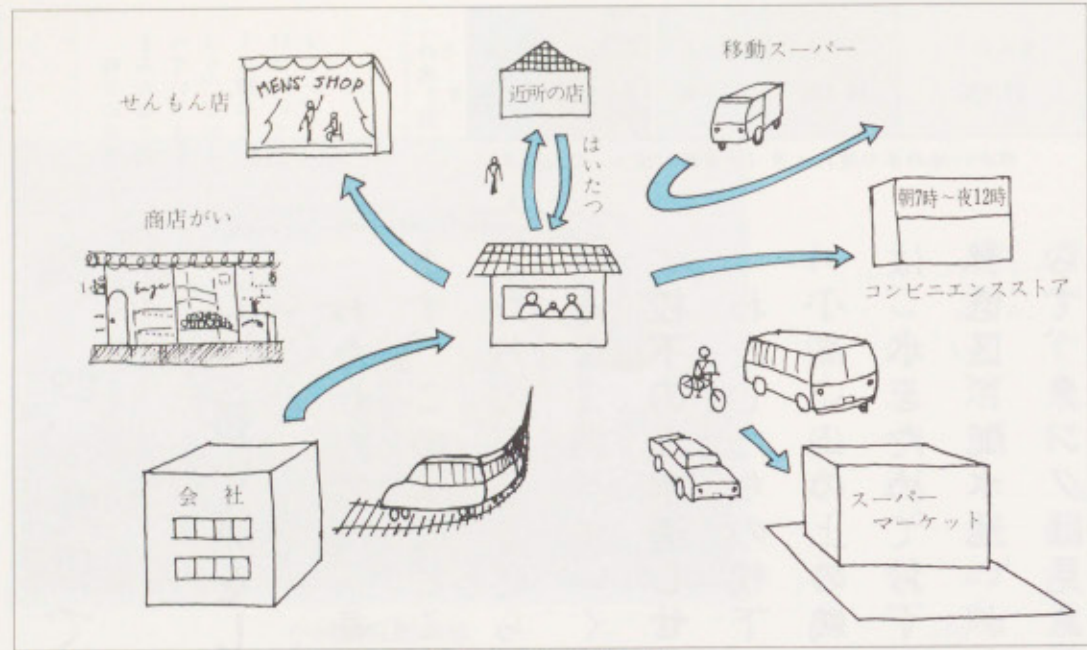
買い物調べをもとに、近所の店ではどんなときにどんな買い物をしたのか、話しあってみましょう。

お店のほうがやって来る

いろいろな食料品をつんだ車や、たくさん服や日用品をつんだバスが団地にとまっていることがあります。これが移動スーパーです。おじさんにお話を聞きました。



近所の店



わたしたちの買い物

「うちは、会社の休みにお父さんの車で出かけて
 買い物もしてくるよ。」
 「わたしのところは、お母さんが毎日、買い物バ
 スで買い物をしているわ。」
 「うちのお母さんはつとめに出ているわ。帰りに
 むこうの駅の商店がいを買ってくるそうよ。」
 「ぼくの家も二人ともはたらいしているのよ。一週
 間に一度、まとめ買いをしているよ。だから、
 大きな冷ぞう庫を買ったんだ。」
 話しあってみると、いろいろな買い物のしかた
 が出てきました。だれがはたらいしているのか、い
 つはたらいしているのかなど、くらし方のちがいで、
 買い物のしかたがちがってきていることがわかり
 ました。

せんもん店
 や商店がいに
 ついて、くわ
 しく調べてみ
 ましょう。

品物をえらぶときはせんもん店

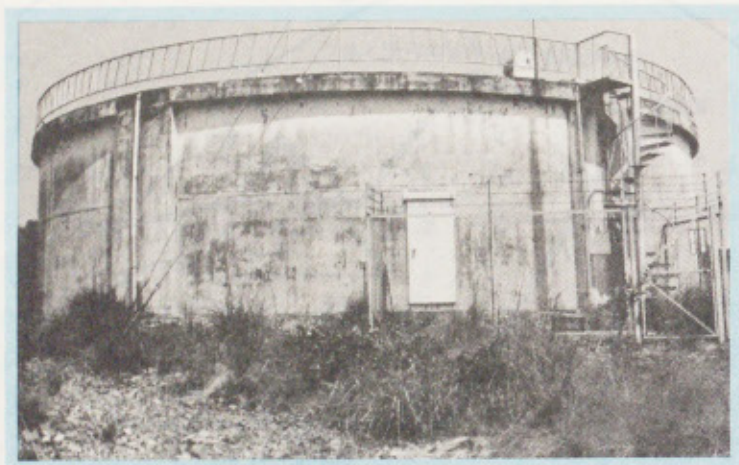
食料品や日用品は、スーパーや近所の店で
 買うことが多いのですが、「その他」の店で
 はどんなものを買っているでしょうか。わた
 したちは、ねだんの高い服や電気せい品や家
 具などを、それせんもんにあつかう店で買う
 ことがあります。この店をせんもん店といい、
 にぎやかな商店がいによくあります。いろい
 ろなデザインの品物や、ほかの店にはない品
 物がそろっているのよ、気に入ったものをえらぶことができます。

毎日買う家、まとめて買う家

みんなの買い物調べをくらべてみると、いろい
 ろなちがいが出てきたのか、みんなが話しあ
 ってみました。



電気せい品のせんもん店



小林高区配水池



鶉沼東部（小林低区）配水池



鶉沼東部水源地

のすぐ東に「鶉沼東部水源地」があります。ここには、機械の入っている建物と消どく薬の入っているタンクがあります。この三つが、校下にあるおもなしせつですが、どんな道すじで水が送られていくのか、もっとくわしく調べていくことにしましょう。

せんたく	ふろ	すいじ	水せん トイレ	せん めん	その他
27.9%	19.4%	17.6%	15.7%	10.7%	9.2%

市が地の水の使われ方（千葉県調査 昭和56年）

校下の水道をみんな調べていきましよう。どのように調べていけばいいでしょうが。

四、健康でゆたかな生活

(一) 長い旅をしてとどく水道

わたしたちは、毎日たくさんの水を使っています。この水はどこで取られ、どうやってわたしたちの家まで送られてきているのでしょうか。みんな調べていくことにしましょう。

校下の水道しせつ

わたしたちの校下にある水道しせつをたずねてみました。

小高い山の上の鶉沼台一丁目には「小林高区配水池」があります。これは、水をためておくタンクです。その少し下の二丁目には「鶉沼東部（小林低区）配水池」があります。ここは小さな機械室が二つあるほかは草はらで、タンクは見あたりません。ぐつと南に下ると、木曾川の右岸で城山



上水道しせつのいち

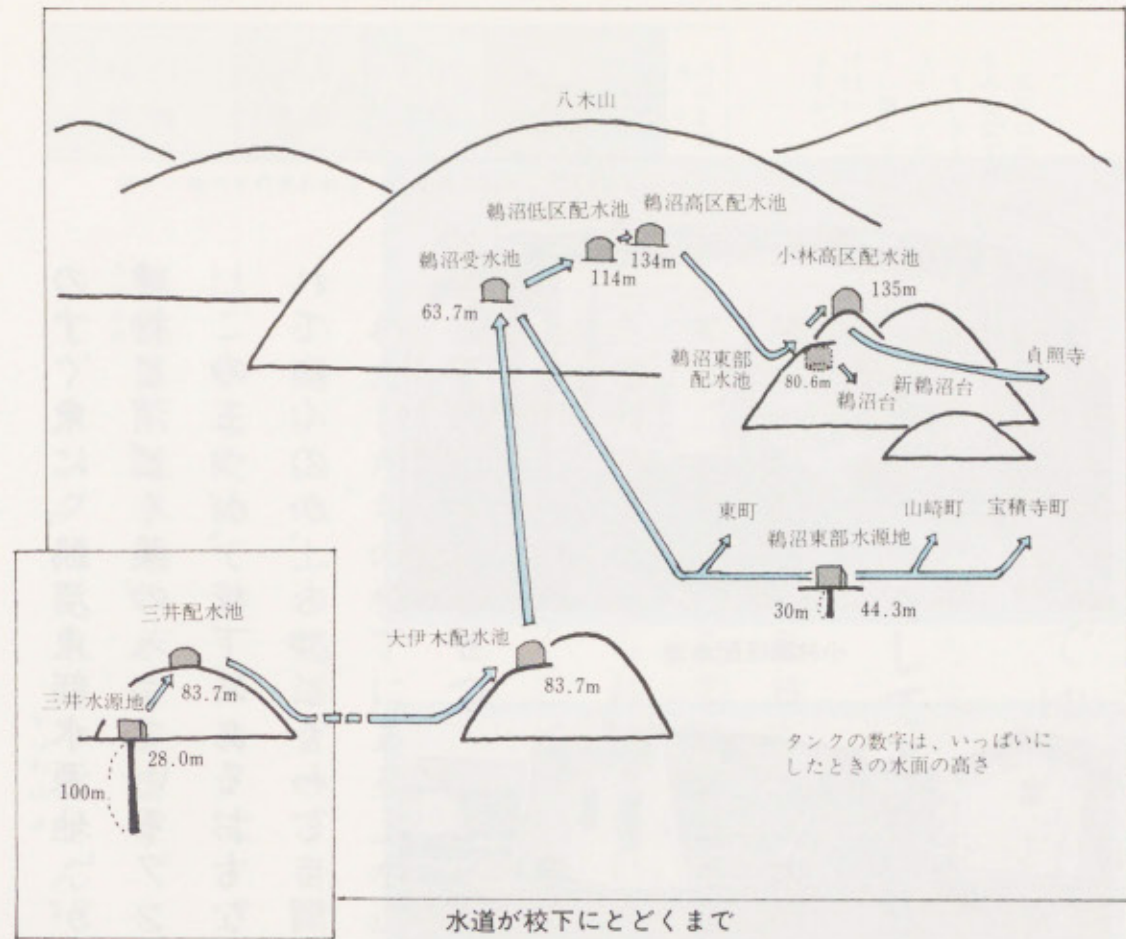
市全体の水道の
ことを調
べてみま
う。

「水は、高い所から落ちるときはいきおいで、家庭にまでとどきます。しかし、鶉沼台の配水池は、大伊木の配水池よりも高い所にあるので、ポンプを使わないと送れません。しかもうんと高いので、遠まわりですがいくつかの受水池や配水池のポンプを使って少しずつ上げていくのです。」わたしたちの校下に水がとどくまでには、たくさんのしせつと何人もの人々の苦心のあることがわかりました。

源地の水でおぎなっています。団地へは、右の図の道すじで送られています。鶉沼東部配水池は地下式なので、地上にタンクはありません。大伊木配水池からは、鶉沼台の配水池ではなく、八木山の受水池・配水池へ送られています。そのわけをたずねてみました。



送水かんをうめる



はるばる三井の地下から鶉三小校下の三つの上水道しせつ以外にも、市内の所々に大きなタンクがあります。それらのしせつの間をどのように水は流れて、わたしたちの家にとどくのでしょうか。各務原市水道局の人にお話を聞いてまとめてみました。各務原市の水道は全て地下水を使い、東部水源地の水も地下水です。木曾川の水ではありません。ここで取った水は、南町・東町・山崎町・宝積寺町などに送られています。しかし、少ししか取れないので、たりない分は三井水

(二) 下水のゆくえ

わたしたちは、毎日たくさんのお水を使っています。使ったお水は、しにょうを合わせて下水といいますが、下水はどこで、どのように始末されているのでしょうか。

自然に返して始末

東町や宝積寺町など古くから開けた地区では、よごれた水は側溝を通して天神川や木曾川へ流し、トイレのしにょうはくみ取っています。

しにょうはくさらせると、よい肥料になります。むかしは、校下にもたくさんのお田畑があつて、農家の人たちはよい作物を育てるために、家々をまわってしにょうを集めていました。

よごれた水を川へ流し、しにょうを畑へ入れて



よごれた水を流す天神川

〔しにょう〕
大便や小便

〔側溝〕
道のわきにある溝

〔バクテリア〕
目に見えない小さな生き物。さいきん。

バキュウムカーでしにょうを集め始めたのは、どうしてでしょうか。

も、水や土の中にすむバクテリアがきれいにしてきていました。

そのうち、家がふえて田畑がへり、化学肥料が使われるようになりました。そうなる、しにょうの始末にこまるようになり、昭和三十七年からバキュウムカーを使って集めるようになりました。そのしにょうは、市の南清そうセンター（稲羽の大佐野町）で処理されています。

家々の間で処理

鶉沼台ではどのような仕組みになっているか、話しあってみました。

「ここは水洗トイレだよ。」

「せんたくなどでよごれた水はどうなるんだろう。」

「家と家の間やかどに、えんとつとマンホールがあるけど関係あるかな。」

そこで、このせつびを管理している会社にたずねてみました。

すると、このせつびはしにょうを処理するため



鶉沼台の処理せつび



南清そうセンター

市の南清そうセンターに運ばれます。汚でいは燃やして灰にし、大伊木町のうめたて地にすてられます。きれいな上ずみは、境川を流れて、木曾川を流れて行きます。

校下の下水
処理のちがい
を表にまとめ
てみましょう。

「この処理場には、万一のてい電にそなえて発電機がおいであります。また、上ずみがよごれているときには、自動的に流し口がとじられます。町や自然をよごしてしまつては大変ですからね。」

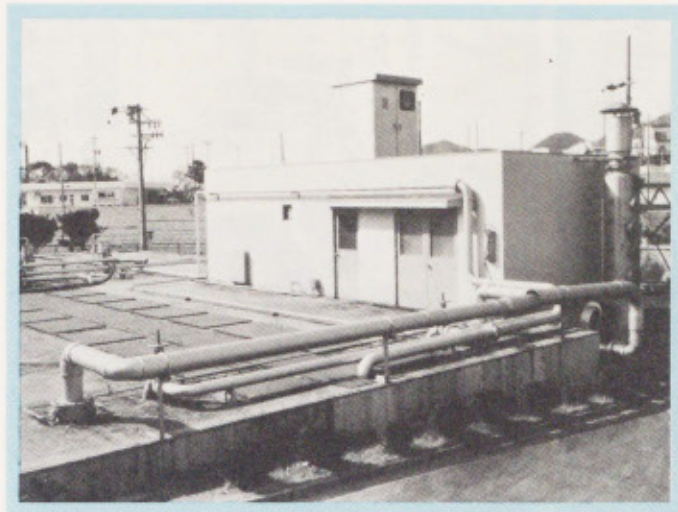
ここと同じ仕組みの処理しせつは、鶉沼台団地の一部と貞照寺団地にも置かれています。

最後には



大がたバキュームカー

このせつび
が、どこにあ
るか調べてみ
ましょう。

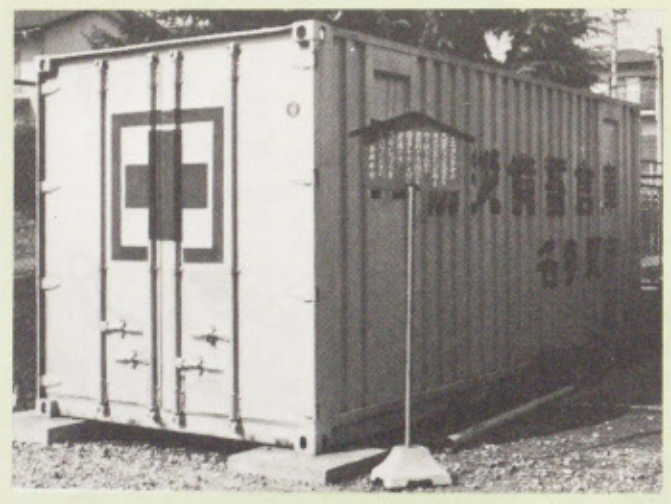


新鶉沼台の処理しせつ

のもので、よごれた水はそのまま天神川へ流されていきました。住たく六〇八けんごとに一台で、鶉沼台全部で六十五台あります。地下のタンクの中でしによは、バクテリアの働きで、きれいな上ずみと底にたまった汚でいに分かれます。上ずみは天神川へ流し、汚でいは年一回、バキュームカーですい取っています。

一か所に集めて処理

新鶉沼台には、日本ライン新鶉沼台汚水処理場という大きなしせつがあります。新鶉沼台の家庭から出るよごれた水としによの全部を、いっしよに処理しています。ここでもバクテリアの働きで、下水を上ずみと汚でいに分けています。上ずみはきれいかどうか確かめた後、天神川に流しています。汚でいの方は、二週間に一度、バキュームカーですい取っています。処理場のおじさんに話をきいてみました。



防さいびちく倉庫

学校や校下の防火せつびについて調べてみましょう。

ります。
町の中にも、防火せつびがそなえつけてあります。学校ふきんの防火せつびについて調べて、話しあいました。「プールも防火せつびだよ。」

「消火栓と消火栓とのきよりは、同じくらいだね。」これらの防火せつびを使って、町を火事から守ってくれるのが消防署です。校下ふきんは、家がどんどん建っているのです。新しく各務原東消防署の出張所が建てられ、昭和六十年三月一日から活動を始めました。
わたしたちの力で
プール横の防さいびちく倉庫には、何が入っているの



東消防署みどり坂出張所



学校ふきんの防火せつび

災害からわたしたちのくらしを守るために、どんなくふうやしくみがあるでしょう。

(三) 安全なくらし

あつ、火事だ

下の写真は、わたしたちの校下で実さいにおこった火事を写したものです。

火事は出さないことが大切です。しかし、いったんおきてしまったなら、できるだけ早

いうちに気づき、消してしまわなければなりません。

そのため、学校などたくさんの人々が集まる建物には、防火せつびがそなえつけてあります。防火せつびには、けむり探知器・火さい報知器・消火器・消火栓・防火とびら・救助ぶくろなどがあ



新鵜沼台の山火事（昭和52年2月28日）



防さい倉庫の品物 (約2,100こ)

でしようか。この倉庫は、大地しんや大水、大火事などの大きいがいにそなえて、市が用意したものです。上の図のような品物が入れてありますが、そのわけを考えてみました。

「けが人を助け出さなくてはいけないからだ。」

「水や食べ物にこまるよ。」

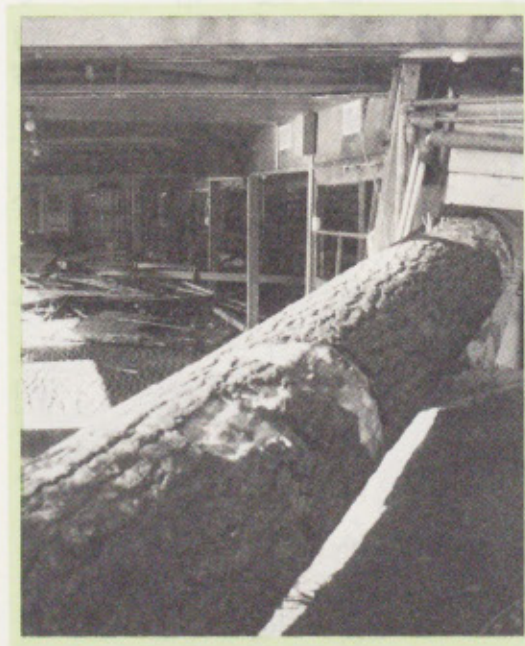
「みんなでひなん場所を作ったり、道をなおしたりするのに道具がいるわ。」

「助けが来るまで、みんなでがんばらなくてはいけないんだ。」

家も道もこわれ、電気も水道もとまってしまふような大きい害のときには、地いきの人々が助け合うことが、なによりも大切です。家庭に

くらしを守るための、市全体のしくみについても調べましょう。

ある薬や食べ物は持ちより、倉庫の中のそうちや道具を使って、助けが来るまでもちこたえなければなりません。そのとき地いきで中心となるのは、消防団や広報会です。これらは、消防署・けいさつ署・市役所などと連らくを取りながら、きゅう助やひなんの仕事を進めていくことになります。



大水でこわされた坂祝の店 (昭和58年9月28日)

宝積寺消防団の横山晃さんの話

あの木曾川の大水は、何十年に一度というものでした。ふだん、団員はみな自分の勤めがあるのだけれど、あのときは、雨の中夜どおして水位を見はったり、道路を通行止めにしてたりしました。見回り中、水がどんどんふえて、物置きが流されたり、床下しん水の家が二けん出たりしたときにはどうなるかと思いましたよ。

ふだんの団の仕事は、消防と山がりです。宝積寺町では、二十〜三十才の青年は、毎年交たいしながら団の仕事についています。

防さい倉庫は、市内の十三か所(昭和五十九年度)にあります。これを地いきのひなんくん練のときに利用したり、家庭でも必要な品物をそろえたりして、わたしたちの力でさい害にそなえていくことが大切です。わたしたちの家でも、できることを話し合っておきましょう。

自分たちの
地区にある施
設は、どんな
ことに使われ
ているか調べ
てみましょう。

(四) ぐらしを豊かにする公民館

鶉三小校下には、地区ごとに公民館や集会場があります。こうした施設は、人々のぐらしに、どのような役立っているのでしょうか。

人々の願いでできた福祉センター

山崎町には、昭和三十六年にたてられた公民館があ



新鶉沼台コミュニティーホール

りました。けれど、古くなって雨がもり、十分に利用することができませんでした。

そこで、山崎町の人々は、新しい施設をつくってくれるように各務原市に何度もたのみました。たてものをたてるための土地も山崎町で用意し、やっと、福祉センターができることになりました。けれど、福祉センターは、夜九時までしか使えないので、町の寄り合いなどで自由に使える公民館も、市の補助をもらってた



鶉沼東福祉センター

昭和55年度	7,490人	鶉沼東福祉センターの利用者
56年度	13,075人	
57年度	17,901人	
58年度	18,696人	
59年度 (11月まで)	18,763人	

てなおすことになりました。

ふえつづける利用者

昭和五十五年、鶉沼東福祉センターが完成しました。利用者も年ごとにふえ、今では、山崎町だけでなく、鶉沼東部のたくさんの方が、利用しています。事務室の黒板には、一か月の予定が、ぎっしりと

書かれています。

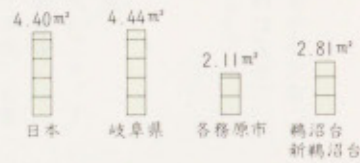
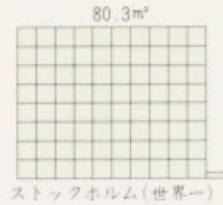


ジャズダンスをまなぶ人

鶉沼東福祉センターにある講座

習字・俳句・短歌・民謡
詩吟・囲碁・華道・茶道
民舞・三味線・デッサン
人形劇・カットフラワー
人形作り・ヨガ・太極拳
ジャズダンス・フォーク
ダンス・社交ダンス

各部屋では、ジャズダンスやヨガのような運動や、習字や俳句、短歌の教室が開かれています。地域の人々は、市のおこなう講座や、自分たちの趣味を生かしたサークルに、すすんで参加し、たのしく豊かな生活をすごしています。学校を卒業してからもずっと勉強し、健康で豊かな生活したいという人々の願いがかなえられるように、公民館や福祉センターの活動が、ますますさかんになっていくことでしょう。



鶴三小の運動場
一万平方メートル
市が地の住民
一人あたりの公園
面積
(ストックホルム
は、昭和四十八
年、五十九年、
他は昭和五十九
年)

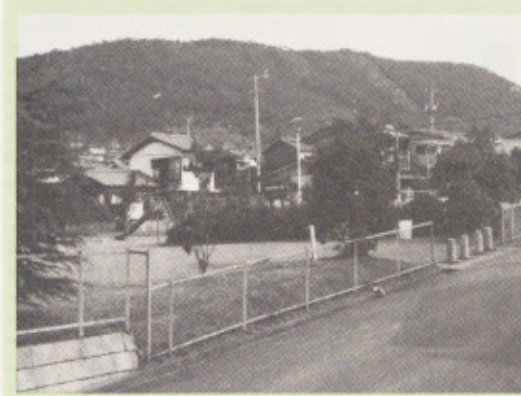
を決めていきました。昭和五十九年には、校下の公園の面積は合計で一万七千八百平方メートルになっていきます。これらの公園を安全で美しくしておくために、市では遊具やしせつの点検修理をしたり、草や木の手入れを行ったりしています。また、電気や水道の料金もしはらっています。



校下の広場 (古くからの地区と新しい地区どにわけて
どんな広場が多いか調べてみましょう。)

けいだい
くらべて、公
園はどんな
ところがう
でしようか。

わたしたち
の校下には、
どこにどんな
広場があるか
調べてみま
しょう。



新鶴沼西公園



赤坂神社のけいだい

(五) みんなの広場

わたしたちの校下は、国道にそって古くから開けた地区と、新しく山をひらいてできた団地の地区とからできています。

古くからの地区での遊び場は、空き地・お寺や神社のけいだい・うら道などです。けいだいには大きな木や古くからの建物があって、落ちついた感じがします。しかし、家が建てこんできたり、車がふえたりして、安心して遊べる所がしだいに少なくなってきました。

新しい地区では、団地を作り始めるときから公園の計画が立ててありました。団地を作る会社と各務原市の係の人とが相談して、どんな公園にするか

鶉三小のう
つりかわりを
しらべてみま
しょう。

五、鶉沼第三小学校のうつりかわり

(一) 学校のはじまり

鶉沼第三小学校は、できてから十年あまりですが、古くから鶉沼に住んでいた人は子どもころ、どこの小学校に通っていたのでしよう。

江戸時代までは、今のような学校はなく武士の子は、藩校などに通い、豊かな商人や農民の子は、寺子屋などで、文字やそろばんの勉強をしていました。けれど、ほとんどの子どもは、そうしたところで勉強することはありませんでした。



濃尾大地震でかたむいた北校（明治24年）

〔藩校〕
各藩がけらいの
子どものためにた
てた学校

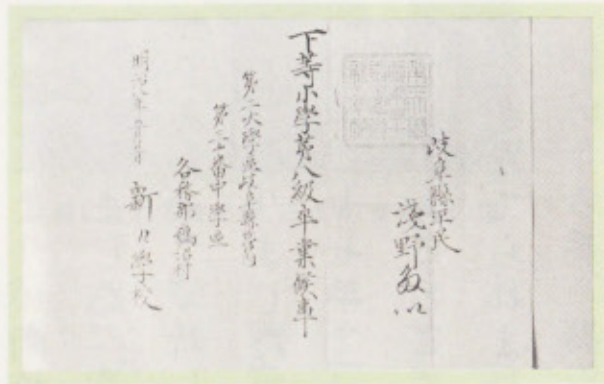
〔本陣〕
宿場で大名など
がとまる宿

児童数(明治六年)
男子 一二七人
女子 三一人
合計 一五八人

就学率(明治六年)
男子 三二%
女子 一二%
合計 二八%

女子が少な
いのはなぜで
しょう。

〔義校〕
学校のこと。下
の卒業証書には、
「新々学校」と書
かれている。



新々義校の卒業証書

本陣が学校に
明治五年（一八七二）、全国に学校を作ることがきまり、だれでも学校に行つて、勉強することができるようになりました。

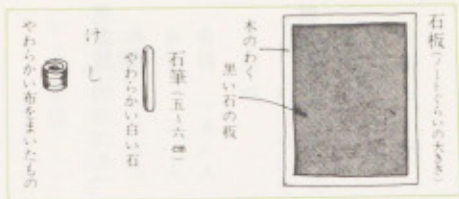
鶉沼には、明治六年（一八七三）に、新々義校という小学校ができました。そのころの学校は、大きな家をそのまま校舎にすることが多く、新々義校も、鶉沼宿の本陣、桜井家が使われました。

この年、学校に通った子どもは、一五八人で、ほとんどが男子でした。今とちがつて、一カ月五銭も授業料をとられたので、まずしくて学校に行けない子どももたくさんいました。

明治八年（一八七五）、広い鶉沼に小学校が一つでは、通学に不便という理由で、古市場の方に南校をたてました。

けれど、明治二十四年（一八九一）におきた濃尾

鶴一小にあるけやきの木は、そのときにうえられたものです。



大地震により、南校はつぶれ、北校はたおれかかりました。そのため、再び二つの学校をあわせて、新しい学校を作ろうということになりました。
明治二十七年（一八九四）、今の鶴沼第一小学校のあるところに、鶴沼尋常小学校の校舎がたてられました。



鶴沼尋常高等小学校尋常科の卒業式（明治40年ごろ）

私の小学時代

大沢ちよさんの話

私は明治四十二年生まれですから、あの頃の稲葉郡鶴沼村の小学校へ入学したのは、大正五年頃だったと思います。あの頃の一年生は、今のように鉛筆でノートに字を書くのではなく、石板に石筆で書いては消しては書いて勉強したのです。一年生の最初は、ハタ、タコ、コマで、カタカナのけいこでした。ひらがなは多分二年生からだだったと思います。一年生の頃は、粗末ながら買ってもらったかばんでしたが、大きくなれば、みんなが風呂しきづつみでした。私が一年生の頃は、この辺にはまだ汽車も電車もひけてはいなかったため、遠足は各務野の飛行場前渡のお不動さまへ歩いて行きました。——「鶴沼小百年」より——

(二) 戦争があったころの学校

戦争のころのようすを、聞いてみましょう。

昭和十二年（一九三七）にはじまった中国との戦争は、昭和十六年（一九四一）十二月、アメリカ、イギリスをはじめ、世界のほとんどの国との戦いに広がりました。

学校も戦争に協力

昭和十六年、鶴沼尋常高等小学校は、鶴沼国民学校と名前が変わりました。教科書に、戦争や軍隊をあつかったものがふえ、運動会や学芸会でも、戦いのようすをあらわしたものがとり入れられました。

戦争がはげしくなると、兵器に使う鉄や銅などがたりなくなり、学校にある鉄も、国にさし出されました。校庭にあった二宮金次郎の銅像も、兵隊に行くときのように、たすきをかけられて、送り出されました。お寺の鐘や火ばちまで、兵



兵器にされる貞照寺、正法寺、空安寺の鐘



二宮金太郎の像

器になっていったのです。

食べ物もなくなり、運動場をほりおこして、さつまいもを作りました。弁当に、白いごはんを持ってくるものはほとんどなく、さつまいもや、麦のたくさん入ったごはんやおかゆを持ってきていました。

昭和二十年（一九四五）になると、各務原もアメリカ軍の空襲をうけるようになりました。

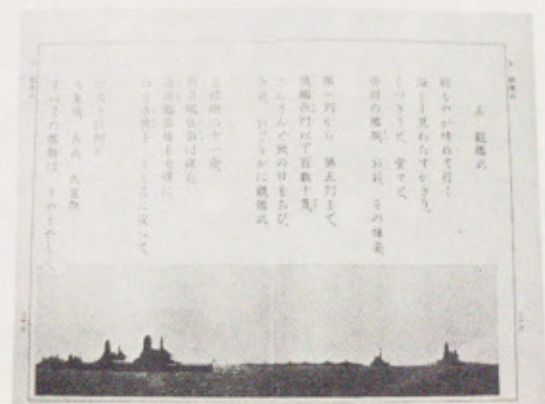
七月十三日、各務原分校（今の鶉二小）は、B29の爆撃によって、燃えてしまいました。三十日には、本校も攻撃されましたが、あまり被害はありませんでした。

八月十五日、戦争は終わりました。学校からも戦争や軍隊をあつかったものが消え、民主主義をとり入れた教育がおこなわれるようになりました。

〔空襲〕
飛行機から爆弾などによって攻撃すること。



スミをぬられた教科書



国民学校4年の国語教科書



鶉沼国民学校の卒業式（昭和19年）

生まれ変わった学校

昭和二十二年四月から、小学校六年、中学校三年の新しい学校制度がはじまりました。それにもなつて、鶉沼国民学校は、鶉沼小学校と鶉沼中学校に分けられました。

昭和二十四年（一九四九）に、これまでの各務原分校が鶉沼第二小学校として独立し、鶉沼小学校も、鶉沼第一小学校と名前がかわりました。

戦争中の子ども時代

——伊藤功さんの話

戦時色一色にぬりつぶされたころには、ズックぐつは二カ月に一回くらい、クラスに五、六足配給になり、くじ引きでわけたので、くつをはいている者は少なく、げたばきやわらぞうりの子が多かった。ゴムぐつや桑の木皮の服の配給もあったが、なかなかあたらず、服のそで口が、鼻汁でピカピカに光ったものを着て通つたものだ。

「ほしがりません、勝つまでは。」「兵隊さんありがとう。」のあいことばは、先生の口から耳にたこができるほど聞かされた。当時の弁当の思い出も多い。当番が弁当の中味を調べ白飯の者には×、さつまいもや麦入りの弁当の者に○をつけてあるいた。大部分の者は、麦のまじった梅干と漬物の弁当が多かった。

——「鶉沼小百年」より——

(三) 鶉三小のできる前

鶉沼第三小学校が新しく作られる前の鶉沼第一小学校は、どんなようすだったのでしょうか。

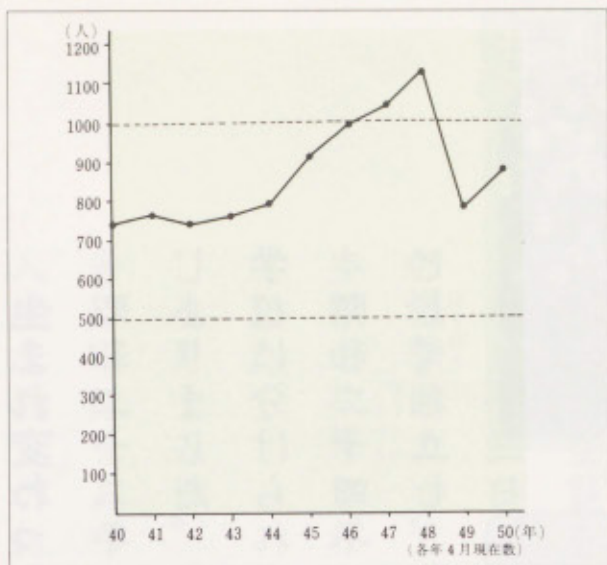
急にふえた児童数

左のグラフを見ましよう。昭和四十四年ごろから、児童数が急にふえています。鶉沼台団地へ、人が住みはじめたのも、ちょうどこのころからです。

鶉沼台団地の宣伝パンフレットには、近くの学校について左のように書かれています。

鶉沼第一小学校（名鉄鶉沼宿駅より）……歩二分
 鶉沼中学校（名鉄羽場駅より）……歩一五分

鶉沼台の子どもたちも、一時間近くかかって鶉一小



鶉一小の児童数の変化

鶉一小の児童数がふえてきたわけを考えましよう。

へ通いました。

鶉三小を作る計画が

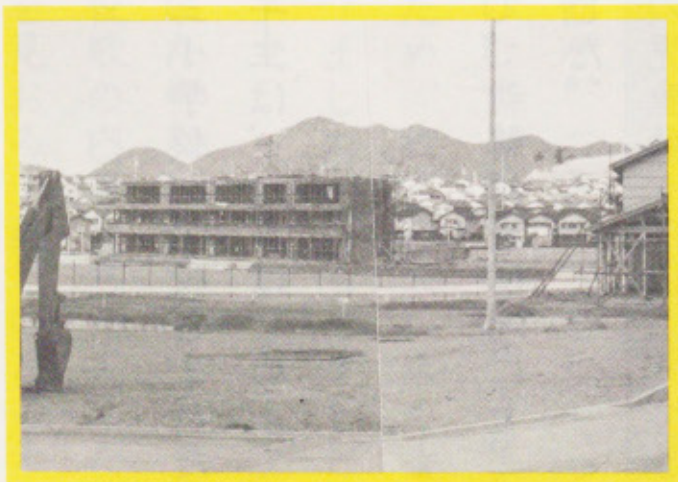
その後、新鶉沼台など新しい団地が、つぎつぎに作られることになりました。そのため、市議会では、鶉沼地区に小学校三校、中学校一校を新しく作る話が話し合われました。鶉沼第三小学校は、その計画の最初の学校です。

現在鶉三小のある場所は、天神川にそった谷あいの田んぼでした。学校をたてるため、その谷はうめられました。

運動場の南西のかどから、下の道までの高さが十メートルぐらいあります。この高さまで土や砂を入れたことがわかります。

昭和四十八年九月に工事がはじまり、つぎの年の四月に、十一教室分の校舎が完成しました。

鶉沼にどんな団地が新しく作られたのでしょうか。



工事中の鶉三小（昭和49年1月）



校歌の発表会

昭和五十一年七月、校歌をつくるため、校下の人に広くよびかけました。二十曲近い作品が集まりましたが、もう少しといふものばかりでした。そこで、音楽の専門家渡辺茂さんにたのむことになりました。渡辺さんは、わざわざ学校に来て、校歌の内容を考えてくださいました。鶺鴒三小は犬山城や木曾川を見おろす美しいところに

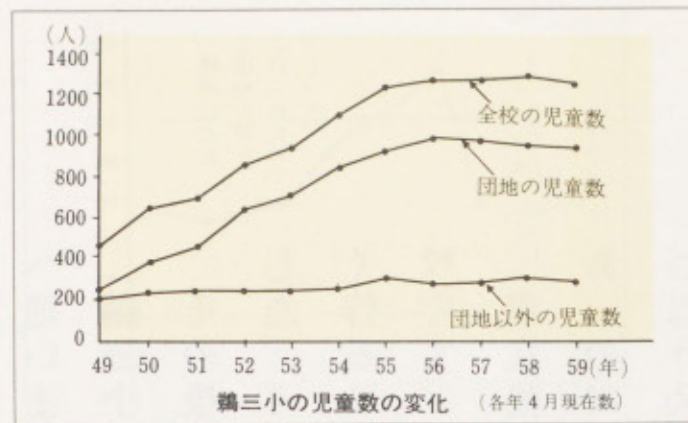
緑苑団地がつくられはじめ、鶺鴒三小の児童数が増え、予想されました。そのため、鶺鴒沼地区四番目の小学校として、緑苑小学校がつくられました。

心のふるさとをめざして

学校になくてはならないプールや遊具、体育館が、つきつきとつくられました。

横山広美さんの話
わたしは、五年生の時、第一小学校から第三小学校にかわってきました。四月のはじめごろ、学校の休みだった時に、学校に行く道や学校を見に行きました。行く道はさかで、ちよつとえらいようなかんじでした。そんなうちに学校につきました。白い三階建の鉄筋の校舎でした。五年生のはじめごろは、せつびがそろっていませんでした。プールもなく、体育かんもなく、しよく員室は、ほけん室と同じでした。

—— 第二回卒業文集より ——



左のグラフから児童数が増えているか考えましょう。

(四) 鶺鴒三小十年のあゆみ

昭和四十九年（一九七四）四月六日、鶺鴒沼第三小学校が開校しました。けれど、校舎は全部できていなかったため、六年生は、六月はじめまで、鶺鴒一小の教室を利用していたので、授業がつづきました。

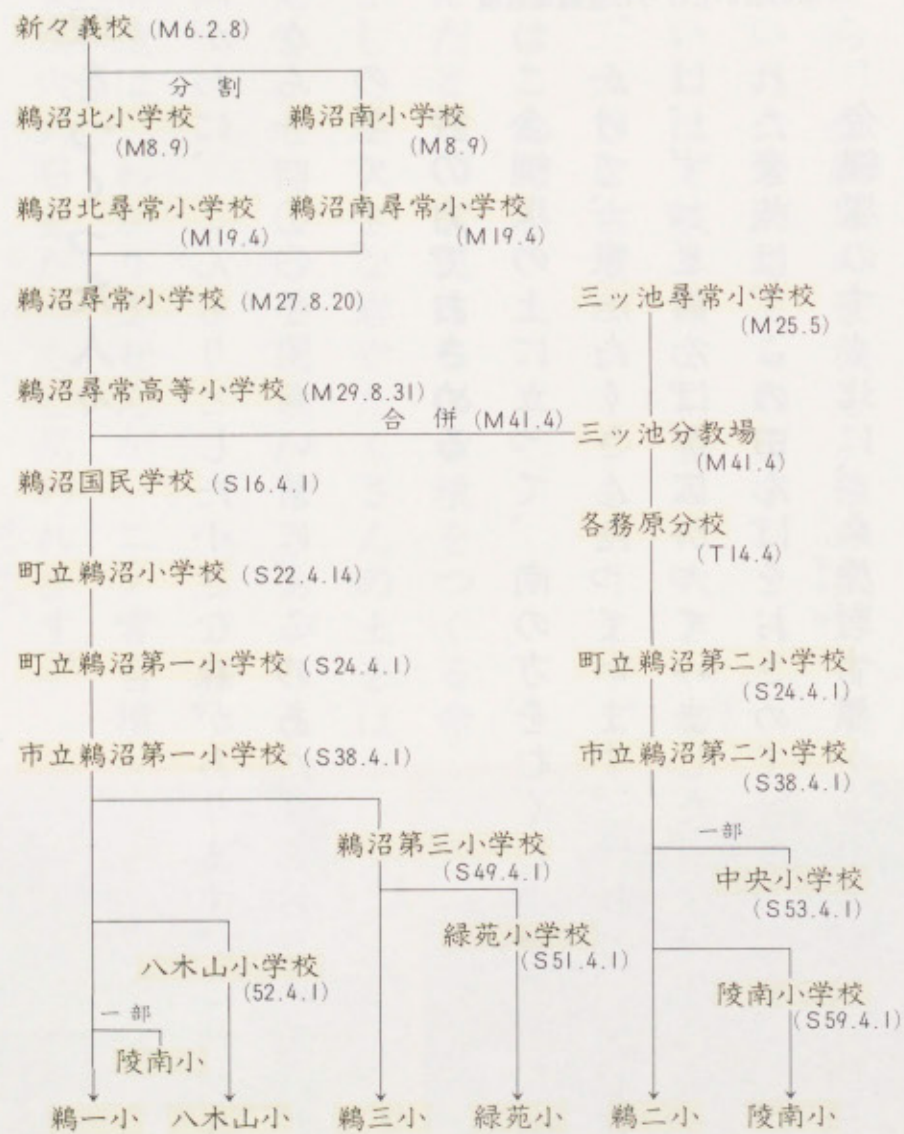
ふえつづける児童数

鶺鴒沼台団地は、家がたてこんできて、新鶺鴒沼台団地にも、建築中の家が、あちらこちらにありました。

団地に家がふえてくると、鶺鴒三小の児童数も急にふえてきました。開校の年に入学した一年生は、九六人でしたが、卒業するときには、一四〇人にもふえていました。

そのため、校舎も毎年のように建てられましたが、ふえる児童数にはおいつきません。しかたなく、図書室や図工室も教室にして、授業をしたこともありました。

しんしんぎこう
「新々義校」から
「鶉沼第三小学校」まで



山口さんから贈られたまきの木

十周年記念 三年 河合一好 「鶉三の子」第三号
 わたしたちの学校は、昭和四十九年にできました。ちょうど、私たちが生まれた年と同じです。だから、私たちも十才、学校も十才です。わたしたちがおとなになったときには、学校もおとなになっているでしょう。またわたしたちの学校は、たった十年しかたっていないけど、これからもっともっとよいれきしをつくり、そして、もっともっと生とたちをふやし、先生たちもふやして、りっぱな学校、かがみはらで一番の学校になってほしいです。そして、明るく、のびのびし、美しい心をもつ学校、全校がなかくし、みんなで助けあう学校にしていきたいと思っています。

鶉沼第三小学校
 校歌
 堂々と
 そびえる城のごと
 強くたくましく
 育つわれら
 学ぶわれら
 共にはげまし
 明るく生きる
 ああ、かがやく
 ゆたかな緑の
 心のふるさと
 鶉沼第三小学校

あります。この地が、ふるさとをはなれて来た人の、心のふるさとになるようにという願いをこめて、校歌ができました。
 昭和五十九年（一九八四）二月、鶉三小の開校十周年を祝う式がおこなわれました。そのとき、記念にとばした風船は、たくさんの人にひろわれ、あたたかい交流が広がりました。千葉の山口さんからは、まきの木をいただき、今では、校門のそばにしつかりと根づいています。
 わたしたちは、鶉三小につながる多くの人たちのことを思い、いつそうすばらしい学校にするよう、力を合わせてがんばりましょう。

横穴式石室のつくり



金繩塚古墳の大きさ
直径 三七m
高さ 五・七m

金繩塚の構造は、わかりませんが、二ノ宮古墳と同じような横穴式石室だったと思われます。古墳の中心に石室をつくり、そこに石棺をおきます。そして、上に土をかぶせ、古墳の表面には、

ところりっぱな鉄の直刀が二本見つかりました。このことから、金繩塚の豪族も、強い武力で農民をおさめていたことが考えられます。鵜沼の山ぞいには、岐阜県で二番目に大きい坊の塚古墳など、大きな古墳がいくつもあります。大きな石をはこんで豪族が死んだとき、農民たちに古墳をつくる命令がだされました。大きな岩やたくさん土をはこび、おわんをふせたような円墳ができあがりま



見つかった鉄の直刀



発掘中の桑原野古墳

金繩塚のよ
うな大きな古
墳をつくった
わけを考えて
みましょう。

六、むかしの鵜沼

(一) 金繩塚をつくった人々

幼稚園の南がわに、こんもりとした小さな森があります。これが金繩塚古墳です。今から一四〇〇年ぐらい前に、このあたりをおさめていた豪族の墓です。

鉄の力でおさめる

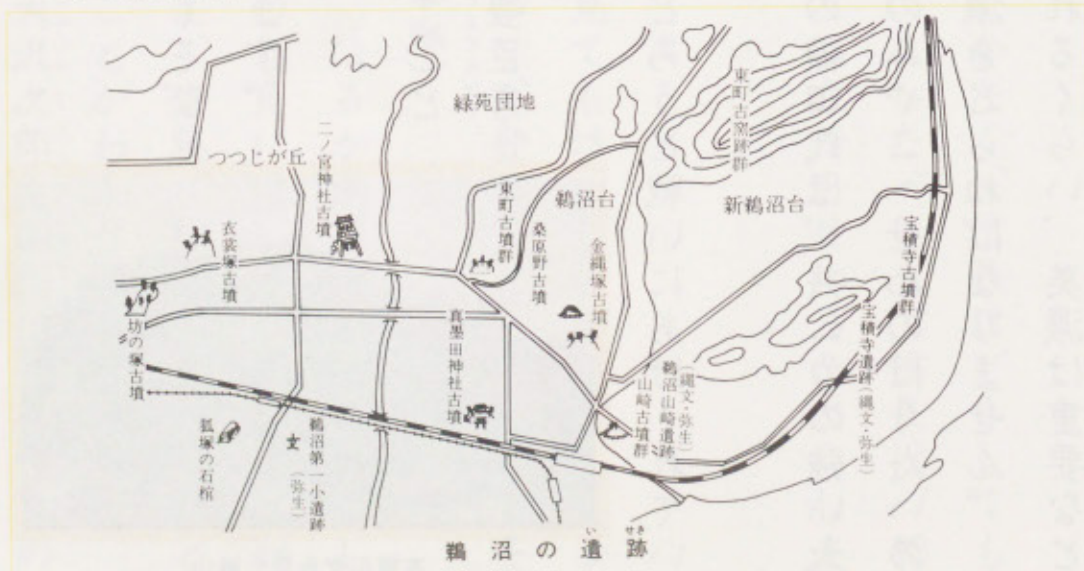
金繩塚の上に立って、南の方をむくと、東町から南町にかけて、家がたくさんたっています。けれど、少し前までは、ずっと田んぼが広がっていました。金繩塚にほうむられた豪族は、この田んぼをおさめていたのです。金繩塚のすぐ北に、桑原野古墳がありました。団地をつくるためにこわされてしまいましたが、こわす前に調べた



木のおいしげった金繩塚古墳



上 山崎古墳 中 二ノ宮古墳
下 狐塚の石棺



器は、良い粘土ねんどで、ろくろを使って作られ、千度以上の高温で焼きます。宝積寺ほうしやくじに須恵器を焼いたかまあとは見つかっていませんが、うとう峠とうげ付近などで焼かれていました。金繩塚をつくった人々や、土器を焼いた人々のようすは、よくわかりませんが、わたしたちと同じように、鵜沼に住んで、せいっぱい働いていたことだけは、たしかです。



宝積寺で見つけた須恵器のかけら

このころから、各務原のあちこちで、たくさん焼かれた土器たぐさんが作られだしました。貞照寺ていしょうじの南にある桑畑くわはたけを見てみましょう。桑の木の下に、土器のかけらがいくつもおちています。この土器は、かたくて、うすい須恵器すゑきという種類です。須恵

石をきれいにしきつめます。てっぺんには、はにわが立てられていたかもしれませぬ。できあがった古墳は、しきつめられた石が陽の光にかがやき、鵜沼うのぬま一带を見おろすように、そびえていたことでしょう。今の金繩塚は、木がおいしげり、形もくずれていません。中央がくぼんでいるのは、墓どろぼうに、ほりかえされたからでしょう。



桑原野古墳から見つかった須恵器



美濃を守る鷺沼城
 鷺沼城は、どこから見てもけわしいがけで、しかも、南がわは木曾川なので、登ることもむずかしうです。
 川をはさんで犬山城、はるか南に小牧山城、そして西には伊木山、北西の方角には、斎藤氏のいる稲葉山城がはつきりと見え、斎藤、織田のどちらにとっても重要な城ということがわかります。
 そのころの鷺沼城主大沢次郎左衛門は、尾張との

ころだったのです。
 斎藤氏のいた稲葉山城（岐阜城）は、守りがかたく、信長はどうしてもせめおとすことができず、反対に、やられていました。そこで信長は、稲葉山城を正面からせめるより、まわりの斎藤方の武将をせめることにしました。

美濃が重要なところであるわけを考えるとみましよう。

(二) 信長の天下統一と鷺沼城

学校から南西の方を見ると、犬山城が美しくそびえています。そのすこし手前に、城山があります。

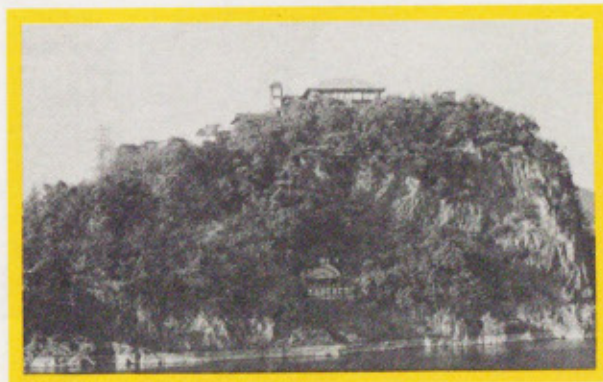
信長の美濃攻め

今から約四百年前、城山には鷺沼城（宇留摩城）とよばれる城があり、城主大沢氏と織田信長、豊臣秀吉のたたかいがくりひろげられました。

そのころの日本は、各地の大名が、天下をとろうと戦いにあけてくれた戦国時代です。

美濃（岐阜県）の斎藤氏、尾張（愛知県）の織田氏は、共に力の強い大名でした。織田信長は、天下をとるために京のみやこへせめのぼりたいたいのですが、そのためには、斎藤氏の支配する美濃をとらねばなりません。

『美濃を征する者は、天下を征する』といわれるくらい、美濃は重要なと



木曾川から見た城山